

ゲゲゲの鬼太郎 DVD-BOX2 2008TVシリーズ

もくじ





シリーズディレクター・演出

貝澤幸男 独占インタビュー PART2



前巻に引き続き、シリーズディレクターを務め、第1・19・27・40・52・69・81・96話の演出を担当し、『ゲゲゲの鬼太郎』第5シリーズを支えた貝澤幸男のインタビューを掲載する。前回は鬼太郎と妖怪横丁の世界観、そしてシリーズの起ち上げについて披露したが、本巻では自身の演出回と、『鬼太郎』第5シリーズの2年間の総括という主旨で語っている。

—具体的に貝澤さんご自身で演出をされた作品の中で、特に「妖怪がある一線を超えると鬼太郎が懲らしめに現れる」という部分に注意されて演出をした回はありますか？

貝澤　最後のほうで割と自由にやらせて頂いた針女（声：渡辺美佐）の回（第81話「決闘！妖怪ハンター対針女」脚本：木原大輔／作画監督：信実節子／美術：清水まこと）なんかは、何十年も前から猟師さんと戦いを続けている針女という妖怪がいて。そこに鬼太郎が入って来て、彼自身が「どちらが悪いのかな？」という判断はあんまりしていないのだけれども、戦いが長く続いた上で既に人間を襲うことがもう、針女の職業みたいになってしまっている。そういったことに対して、本来の針女というか「本当の自分はそうじゃないんじゃないの？」と、そこまで言っちゃったというんですかね。本来の姿に戻すというか、いまの状況を止めるような形の鬼太郎を考えたのが、ああいった鬼太郎の参加の仕方だったんですね。猟師と針女の間のひとつの戦いを終わらせたんだけれども、なお且つそれでもそれが本当に良かったのか悪かったのか…。長年戦い続けて、それが終わってしまったことに対する虚しさなんかも残ったりすると思うんです。ちょっと難しいかもしれないんだけれども、妖怪と人間や善悪の判断、そういったものを総合的に考えたときに、妖怪と人間の間でいざこざがあったとき鬼太郎としてはああいう解決の方法もあるのかな？…というひとつの道筋を作れたような気はします。決して鬼太郎が答えを出す訳ではないんだけれど、観ている人が妖怪や人間、または鬼太郎に対して、何かひとつ考えていけるお話というか、そういったものにはなったんじゃないかと思いますね。

—1年目の河童の相撲のエピソード（第19話「河童池の相撲大会」脚本：長谷川圭一／作画監督：浅沼昭弘／美術：北村芳子）にも通じるテーマですよね？

貝澤　そうですね。

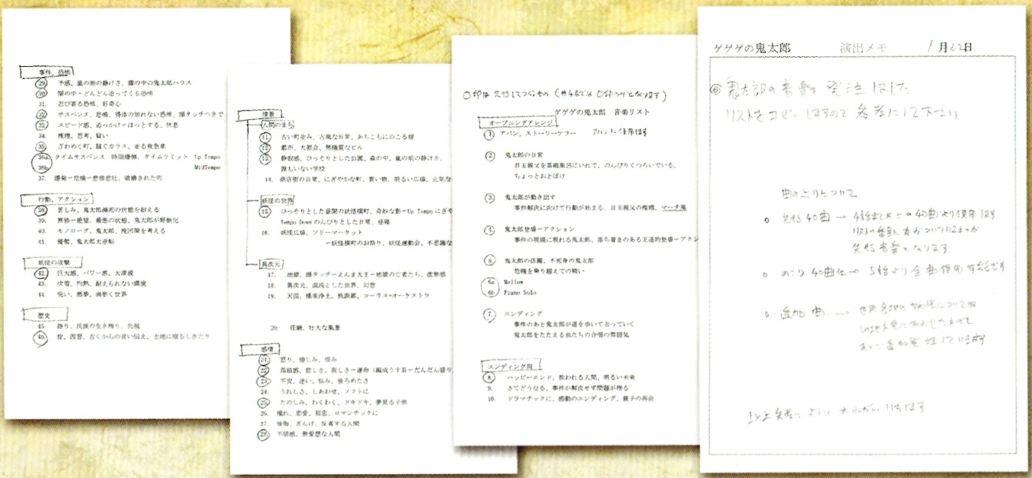
—丁度2年目へのターニングポイントだった夜道怪（声：中田譲治）の回（第52話「恐怖！夜道怪」脚本：三条陸／作画監督：藪本陽輔／美術：白井走、高木佑梨）には、1年経ったところでもう一度『鬼太郎』は恐いものだという原点を強調する意図があったのでしょうか？

貝澤　やはり2年目の最初ということで、もう一度原点に立ち戻るというか、『鬼太郎』の「恐い妖怪に対する正義の味方・鬼太郎」という構図をここでちょっとやっておきたいな、というか。三条（陸）さんの意図が一番強くて、ああいったシナリオになったような気はしますね。でも、2年目の四十七士の設定で夜道怪も割と重要なところを受け持っていますので、そういったところに上手く繋がったんじゃないかと思っています。

—夜道怪の頃は、シリーズ的にはまだ四十七士の設定が出る前だったわけですが、わざわざ目玉おやじが「夜道怪は埼玉県の出身じゃぞ！」と伏線を匂わせていますよね。水面下で夜道怪が四十七士に入ることは決まっていたんですか？

貝澤　2年目だったから多分…。ハッキリとは分からないんですけど、もしかしたら話自体は出ていたのかもしれませんね。

—貝澤さんの回は異色回が多くて、穴ぐら入道（声：中博史）の回（第69話「鬼太郎大異変！穴ぐら



こちらは貴重な、音楽発注メモ。『鬼太郎』第5シリーズの音楽世界を掌握するにはもってこいの資料だ

入道」脚本：吉村元希／作画監督：中條久美／美術：高木佑梨）は演出もすごく凝っていて、これは元々シナリオ段階からあの物語が出来上がっていたんだろうと思うぐらいちょっと映像も面白い話になっていましたが。

貝澤　結構、もう原作から変な話ではありましたから（笑）。それをどういう風に料理すればいいんだろうということで練っているうちにああいう風になっていたのかなと。割とシナリオも大きく僕のほうで変更しちゃった部分もあると思いますが。本当に妙な回というか。あとは作画監督も仲條（久美）さんにやって頂いたんですけど"変さ"をうまく理解して頂いて、なんかちょっとポワンとした穴ぐら入道の表情を上手く出して頂けたと思います。

――あの回は極端なアップが多用されていますが、一方でモニター越しだと「穴ぐら入道がどこにいるんだ?」と、すごく引いた絵があったりしますよね。貝澤さんの回は普段でもアップの使い方が印象的ですが、それが特に際立った回だと思います。このエピソードでの貝澤さんの狙いを教えてください。

貝澤　狙いといっても「変なものを作ろう」と思ったらあんな風になっちゃったというぐらいの感じですよね（笑）。基本的にアップとか引いた形というのは割と僕も好きな絵作りなんです。結局中途半端なサイズだと、どうしても「どういう風に観せたいのか?」という意図するところが見えないので、メリハリの付いた画面の切り替えみたいなものが必要と言いますか…。アップにすると、主人公が何を見ているかということが割と分かり易く表現されて、そのキャラクターの表情とかがウマく出ると思うんです。「この人は何を見て驚いたんだ?」というのを観ている人も気にするというか。そういったものが非常に描き易い感じになるんで、ストーリーも進みやすい。キャラクターが何かを見て感じたからそれに共感して物語が進んでいくという、そういった描き方が自分の演出的にやりやすい方向でもあったのかなと思います。

――もうひとつは『鬼太郎』の中で、誰もが必ず通過する定番ともいうべき「妖花」（第96話「怪奇ロマン！妖花の誘い」脚本：吉村元希／作画監督：市川慶一／美術：高橋英次）を担当されているわけですが。

貝澤　結構難産な話でしたね（苦笑）。

――演出されている回では、あれが一番最後に放送されたものになりますよね。「妖花」の話は8月の終戦記念日辺りに放送するのがいままでの定番でした。それが2009年2月24日になったのは、3月に放送が終わってしまうという理由によったんでしょうか?

貝澤　いや、あれはシナリオが…。「妖花」自体も結局、妖怪が悪さするみたいな、あんまり派手な作品じゃなかったので、見所をじゃあどこにするんだというのが非常に難しい話だったんですよ。それに、女の子のお父さんが戦争でどうのこうのという話ではもうないですよね?シナリオに取りかかったのは割と早かったと思うんですけどそこら辺もあって、じゃあ本当にどういう風にやったらいいんだろうなと、もうちょっと後にしよう後にしようって押されていって…。でもいよいよやらなきゃいけないとなって、僕に回ってきたのが実情です。ずっと先延ばしにしていた結果というか。



本作の演出にあたって作成した、通称・貝澤メモより、ネコ娘に関する設定メモ。ここから21世紀の新生・ネコ娘が誕生したのだ





同じく貝澤幸男によるねずみ男の設定メモ

——ねずみ男というキャラクターの扱い方には、第5シリーズではどういう申し合わせがあったのでしょうか？ 妖怪横丁との関わりがあるからかもしれないんですけど、完全な裏切りとか悪の骨頂ということではなく、もうちょっと善良な関わり方をしたり、ネコ娘とは別の形で結構社会の中で関わりを持っていたりしていますよね。

貝澤　ねずみ男というキャラクターはやはり非常に難しかったような気がします。「本当に悪にしてしまって、その方向での鬼太郎との関わりはどうなんだろうか？」とか。僕らの中でも少し様子を見たという感じがしたんです。様子を見た上で、「じゃあどういった方向に？」とキャラクター性を振り分けていたので、そういったふうに感じられたのかもしれませんね。なかなかこう、どんどんひとつの方向へ持っていくのが考え辛いキャラクターだったのかも。いま見てみると、割とネコ娘のほうが人気度が高くなったような部分もあるので、ねずみ男のキャラクターを活かし切れない部分も、もしかしたらあったのかなと思います。

——あまり凶悪にはしないという申し合わせ事項はあったんですか？

貝澤　それはなかったと思います。面白ければそこまでやってしまって、どうなるかを見てみたかった部分もありましたので。

——結果的にネコ娘のキャラクター性のほうが膨らんだということですか？

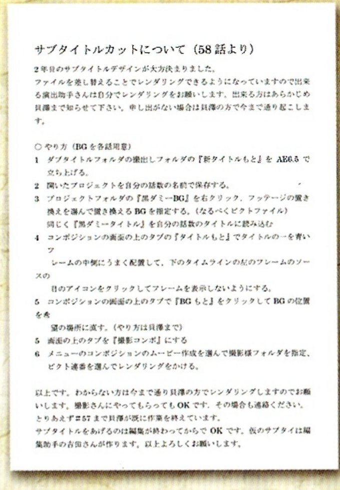
貝澤　そうですね。そちらのほうがスタッフ的に「やってみたい」という人が多かった。その部分が結果的に作品に反映されたように思います。

——今回の『鬼太郎』は従来の作品に比べて、妖怪たちそれぞれがひとり歩きするぐらい、良い意味で強烈な個性を出していたと思うんです。その辺りは、演出家という立場からするとやり易かったりしたんでしょうか？ また、貝澤さんにとって想い入れのあるキャラクターはいますか？

貝澤　みんな想い入れはあったような気はしますけど（笑）。みんなそれぞれ良いという感じで（笑）。

——ご自身が担当した回のマイ・ベスト・エピソードは？

貝澤　後半のほうになると、割と自分でも味のあるものができたかなぁとは思っているんですけれども、テーマ的というか、自分の作りたかった今回の第5シリーズの『鬼太郎』という意味では、一番最初の第1話（「妖怪の棲む街」脚本：長谷川圭一／作画監督：信実節子／美術：吉田智子）です。妖怪って人間がイタズラをするように、ある一線を超えるときがある。鬼太郎もある程度まではそれを認めるけど、一線を超えたときに懲らしめに現れる。その図式を人間社会に当てはめたときに、人間の子供のするイタズラって子供がイタズラっ子だったとすると、親や周囲の大人はそのイタズラをある程度は認めるけど、それを超えちゃったらダメだよと注意しないといけない。今の子供って時々見ていると「あんまり上手にイタズラする子供がいないな」という印象で。なんか変にイタズラをすると、本当にヤバイことになっちゃう感じがするんですね。上手にイタズラをできるよう

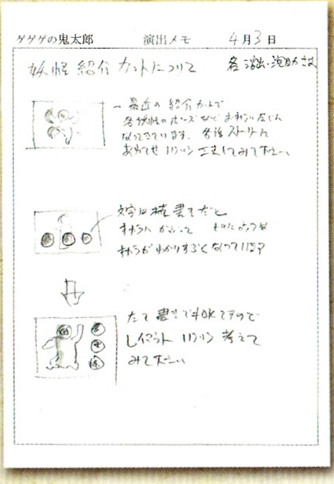


サブタイトルカットについて（58話より）

2年目のサブタイトルデザインが大方決まりました。
ファイルを差し替えることでレンダリングできるようになっていますので出来る演出助手さんは自分でレンダリングをお願いします。出来る方はあらかじめ貝澤まで知らせて下さい。申し出がない場合は貝澤の方で今まで通り起こします。

○やり方（BGを各話用意）
1　ダブタイトルフォルダの撮出しフォルダの『新タイトルもと』をAE6.5で立ち上げる。
2　開いたプロジェクトを自分の話数の名前で保存する。
3　プロジェクトフォルダの『黒ダミーBG』を右クリック、フッテージの置き換えを選んで置き換えるBGを指定する。（なるべくピクトファイル）
同じく『黒ダミータイトル』を自分の話数のタイトルに読み込む
4　コンポジションの画面の上のタブの『タイトルもと』でタイトルの一を青いフ
レームの中側にうまく配置して、下のタイムラインの紀のフレームのソースの
目のアイコンをクリックしてフレームを表示しないようにする。
5　コンポジションの画面の上のタブで『BGもと』をクリックしてBGの位置を希
望の場所に直す。（やり方は貝澤まで）
5　画面の上のタブを『撮影コンポ』にする
6　メニューのコンポジションのムービー作成を選んで撮影様フォルダを指定、ピクト連番を選んでレンダリングをかける。

以上です。わからない方は今まで通り貝澤の方でレンダリングしますのでお願いします。撮影さんにやってもらってもOKです。その場合も連絡ください。
とりあえず#57まで貝澤が既に作業を終えています。
サブタイトルをあげるのは編集が終わってからでOKです。仮のサブタイは編集助手の吉田さんが作ります。以上よろしくお願いします。



ゲゲゲの鬼太郎　演出メモ　4月3日

妖怪紹介カットについて　各演出・演助さま

→最近の紹介カットで各妖怪のポーズなどおとなしくなってきています。各話ストーリーにあわせてバリバリ工夫してみて下さい

文字は横書きだと すわりがよくて もったいないが 妖怪が小さくなってしまう？

たて書きでもOKですので レイアウト バリバリ考えて みて下さい



2年目突入にあたっての注意書き。この細かい配慮が幾多の傑作を生んだのである

子供を導くというか、子供の位置付けというか、そういったものが第1話の中にも、子供が水虎（声：掛川裕彦）の祠を壊しちゃったことによって、水虎がちょっとイタズラするみたいな。そういったところで、メッセージとして入れられたのかな？という感じで。そういった意味では1話なのかな、と。それで1話は、一番最初に大体僕らが、鬼太郎が出て来るところを考えるときにはやっぱり、どういうシチュエーションがカッコイイのかな？って考えて。他のシリーズでも鬼太郎の出方っていろいろ考えていると思うんですけど、第5シリーズで一番最初に鬼太郎がなんで出たかっていうと、お父さんにお湯を一所懸命かけているところなんです（笑）。やっぱり鬼太郎って、そういったところが本当の『鬼太郎』で、「別にいろいろあってもこういう風にのんびり生きていれば、全部解決できるんだよ」という（笑）。それがメッセージで、それが分かっていない子供を鬼太郎がなんとか助けてあげるといったね。そういったことを考えると、1話ってなんかいろいろ想いを入れられたのかなぁということで印象には残っています。

――シリーズディレクターとして2年間を振り返られて、『ゲゲゲの鬼太郎』第5シリーズ全体を総括して頂けますでしょうか。また、貝澤さんなりにこういうことはやれたぞというご自身での達成感と、もっとシリーズが続いていたらこういうこともやりたかったみたいなところもお願いします。

貝澤　僕は第4シリーズでも参加させて頂いたわけですけど、それまでは自分の中にある『鬼太郎』が一体どんなものなのか、なんとなく「こうだ！」と言葉に表して言えなかったんです。でも第5シリーズをやってみて、自分の中で妖怪や鬼太郎に対して、ひとつの形が出来たという感じはします。それが第5シリーズのコンセプトである、「妖怪というのは恐いだけじゃなくてユーモア溢れる存在なんだよ。身近な恐怖の中にいるものがちょっと面白おかしいんだ」というものになったわけです。

2年目に入って「四十七士」が出て来たことで、地方色というか地方にいる妖怪にスポットを当てた、最初に考えていたのとはまた別の「妖怪の描き方」にも魅力を感じました。地方という地域に密着した場所であるからこそ、その土地と妖怪の独特な関わりみたいなものがどんどん出てきて、面白いんじゃないかなと思ったんです。日本をグルッと廻ってもう少しそういうことをやった上で、「最後に四十七士がどうなった？」という結末をやりたかったですね。また、そういった地方色や地方の中にある、語り継がれた妖怪の恐さ、面白さといったものをもうちょっと出していきたかったという思いはあります。

（2009年12月某日　早稲田「喫茶ぷらんたん」にて）

貝澤幸男

かいざわ・ゆきお：長野県出身。'81年4月、東映動画（現・東映アニメーション）に入社。『とんがり帽子のメモル』（'84年）で演出家デビュー。『ビックリマン』（'87年）でシリーズディレクターに昇格。代表作は『地獄先生ぬ〜べ〜』（'96年）、『ふしぎ魔法ファンファンファーマシィー』（'98年）、『貧乏姉妹物語』（'06年）など（以上、シリーズディレクター）。

妖怪横丁観光案内

第5シリーズより登場した、妖怪たちの棲む街・妖怪横丁。いろいろな騒動の舞台となった数々のスポットを紹介していこう。

妖怪横丁メインストリート

おいでませ妖怪の棲む街へ!!




大風呂屋敷
↑
カラスの森
ゲゲゲハウスへ
床屋
瀬戸物屋
反物屋
豆腐屋
油屋
金物屋
薬屋
提灯屋
酒屋
←妖怪寺へ
まんじゅう屋
標識塔
雑貨屋
妖怪横丁



ゲゲゲハウス

妖怪横丁の奥、カラスの森を過ぎた湿地帯に建つツリーハウスが鬼太郎と目玉おやじの家だ。家の前にはお馴染みの妖怪ポストが置いてある。屋根の上に伸びる木にはカラスの巣があり、鬼太郎に協力するカラスが住んでいる。



カラスの森にある、地獄岩。平素はしめ縄が張り巡らされ、厳重に結界が張ってある。



ゲゲゲハウスの入り口。藁でできた暖簾がかけてあり、誰でも自由に出入りができる。



ゲゲゲハウスの内装。何十年も使っているだろう調度品が多く、極めて質素。

その他の施設

妖怪横丁には妖怪たちで賑わう商店のほか、社交場とも言える酒屋や風呂屋、それぞれの住居などがメインストリートを中心に広がっている。標識塔周辺は常に妖怪たちの往来があり、人間界から訪れた者を驚かせている。

標識塔
妖怪横丁の標識塔。横丁のメインアーケード。往来が多く、夜にはライトアップも。





妖怪寺
墓地も付属している。手入れが行き届いておらず、落ちぶれた風情。逆柱がいるのはココ。

雑貨屋
つるべ落としが経営している雑貨屋。隣にある小豆洗いのまんじゅう屋とはライバル関係。



酒屋
鬼太郎ファミリーが宴会を開くときに利用している。店先で呑むこともできる。





入り口
妖怪横丁の入り口。両脇に灯るつるべ火によって、異なる世界や場所を繋いでいる。

商店
右側奥から油屋、薬屋、左奥から豆腐屋、金物屋。油屋は油すましが経営している。



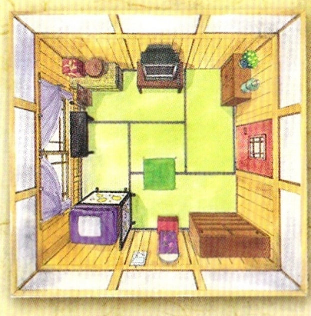


大風呂屋敷
お歯黒べったりの経営する風呂屋。大風呂屋敷の名にふさわしく、様々な種類の風呂が。



妖怪長屋

妖怪横丁の入り口近くに建つ、古い2階建てアパート。大家の砂かけ婆はリフォームの機会をうかがっている。子泣き爺、ろくろ首、呼子、傘化けなどが店子だが、家賃は滞りがちのよう。ちなみに、アマビエは砂かけ婆の居候扱い。



ろくろ首の部屋。人間界でアルバイトをしているだけあって、テレビなど現代的な家具も。



2階にある、長屋のダイニング。どうやら風呂、トイレ、炊事場は共同のようだ。



砂かけ婆の砂工房。長屋の一階部分に設けられている。入り口のベンチは憩いの場。

死神の家

死神99号の家。骨太、青子、生まれたばかりの赤ん坊の4人で暮らしている。





運送屋

輸入道が経営する運送店「ひのわや」。火車が働いている店でもある。

ぬりかべの家

ぬりかべ一家の住む家。家族が増えるのを機に、ぬりかべが自ら立てた立派な家。





ねずみ男の家

ねずみ男の住む家。妖怪横丁の外れの川沿いにある。貧乏なためか家というか掘っ立て小屋。

キジムナーの家

キジムナーたちの家。一本の木に開いたそれぞれの穴からキジムナーが顔を出すことも。





夜行研究所

夜行さんの研究所。妖怪の最新情報が集まる。テレビがあるので妖怪たちの集まるたまり場になることも。

マッサージ屋

化け蛸のマッサージ屋。部屋の四方にある窓から足を出し、放射線上に寝た患者を施術する。





まんじゅう屋

小豆洗いのまんじゅう屋2階。居住スペースになっており、店内同様薄暗い。

魅力的な鬼太郎のライバルたち

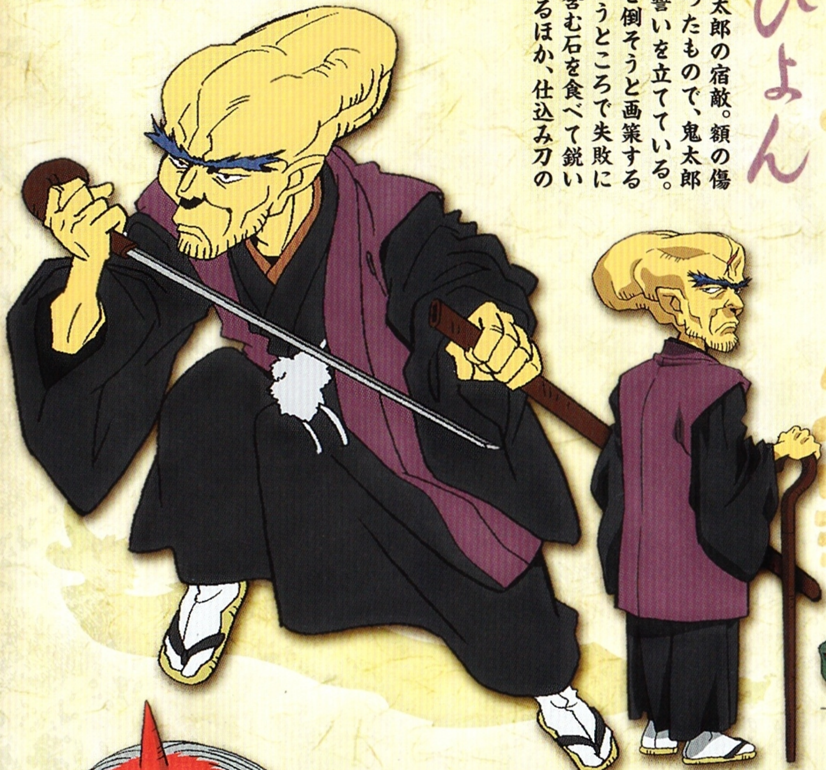
『ゲゲゲの鬼太郎』といえば、その敵役たちの豪華な顔ぶれも魅力のひとつ。第5シリーズでも大活躍だった彼らの姿を見ていこう。

ぬらりひょん一家

ぬらりひょん

日本妖怪の総大将で、鬼太郎の宿敵。額の傷は鬼太郎との戦闘で負ったもので、鬼太郎を倒すまで消すまいと誓いを立てている。あの手この手で鬼太郎を倒そうと画策するが、いつもあと一歩というところで失敗に終わってしまう。鉄分を含む石を食べて鋭い鉄の爪を出すことができるほか、仕込み刀の杖を使って戦うことも。


ぬらりひょんの私邸。彼らしい落ち着いた日本建築。



蛇骨ばばあ

参謀的な立場で、ぬらりひょんと行動を共にしている。蛇で作った鏡に映像を映したり、ミウを洗脳したりと呪術的な能力に優れ、ほかのメンバーのサポートを得意とする。



朱の盤

ぬらりひょんに長年仕えてきた腹心で、一家随一ともいえる忠誠心を持っている。鈍くさくあまり役に立たないことから、ぬらりひょんにクビを言い渡されたことも。



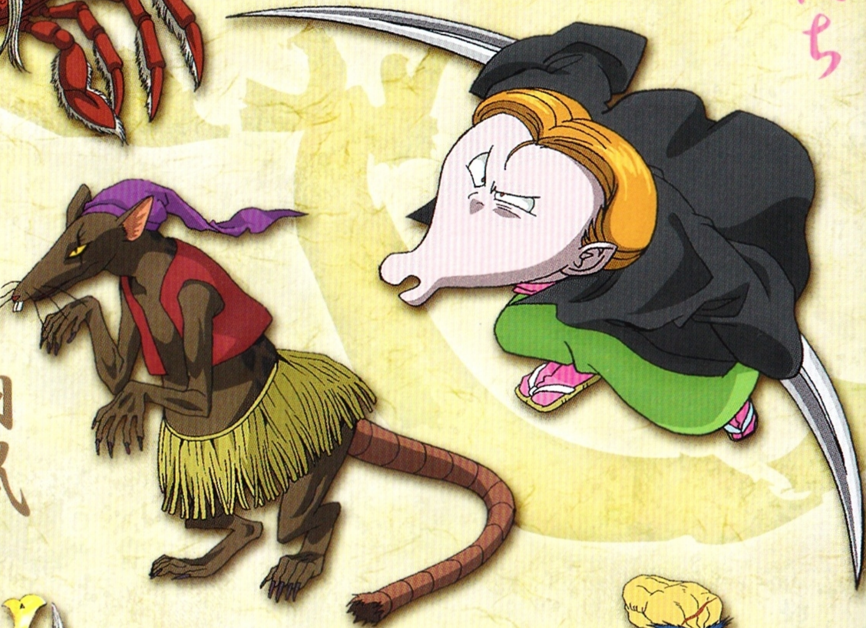
かまいたち

旧鼠のスカウトでぬらりひょん一家入りしたスゴ腕妖怪。少女漫画好きで乙女チックな一面も。空中戦を得意とし、一反もめんに乗った鬼太郎と息も吐かせぬ攻防戦を繰り広げた。

蟹坊主

旧鼠と共にぬらりひょんの脱獄を助けた、巨大な蟹の妖怪。背中に仲間を乗せて移動することも。巨体を利用したパワープレイが得意で、ぬりかべと互角に渡り合う。





旧鼠

ぬらりひょんが刑務所に投獄された際は一家のブレインとして活躍。かまいたちを仲間に引き入れることに成功している。噛みつくことで体内の毒素を相手に感染させ弱らせる。

妖怪城

ぬらりひょんに騙されたたんたん坊が復活させた巨大要塞。意志を持っており、ぬらりひょんを父親と慕う。性格は幼いが、ほかの妖怪を取りこむことで強力な力を得る。



妖怪城を意のままに操るためのコントロール装置。



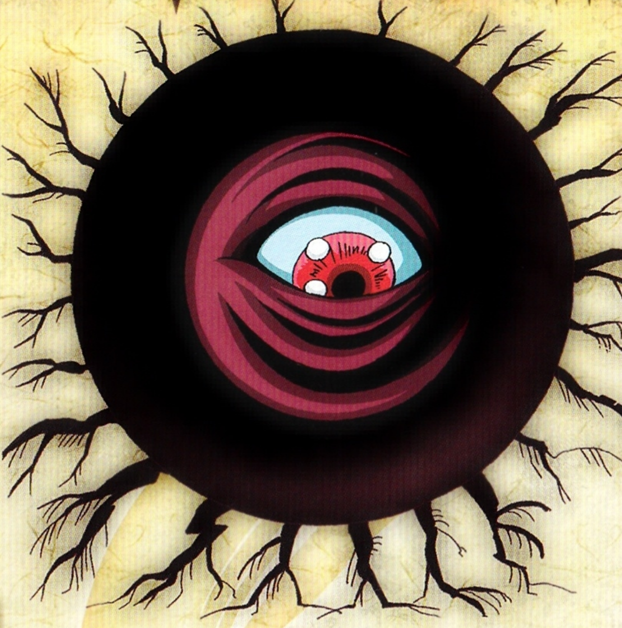
妖怪城の最上階。台座上の椅子にぬらりひょんが座る。



妖怪城を守護する炎龍、水龍、土龍、風龍の4龍。

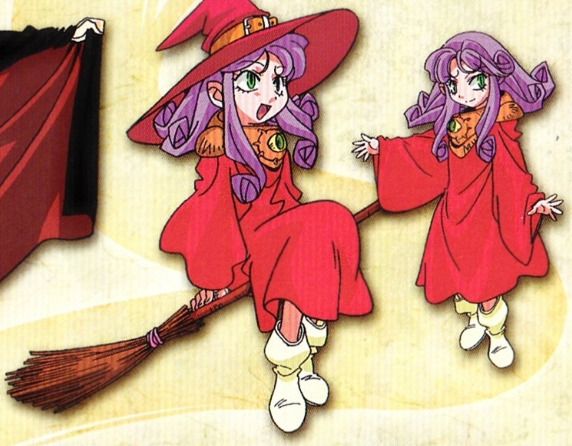


西洋妖怪



バックベアード

アメリカの妖怪で、西洋妖怪たちの大統領的存在。古今東西妖怪図鑑には「馬旬部阿度」と記されている。西洋妖怪たちの黒幕としての出演が多く、その実力は謎に包まれており、計り知れない。世界を征服しようと企んでいて、それに邪魔な鬼太郎を倒すため、ぬらりひょんと手を組んだこともあった。



魔女ザンビア

先代魔女の孫娘。高飛車でプライドが高く、気分屋。初登場時はまだ見習いだった。バックベアードへは忠誠とともに恋心も抱いている様子。



ドラキュラ三世

由緒正しいドラキュラ家の三代目だがザンビアに馬鹿にされたり、先代たちに比べるとまだ線が細い印象。実力をつけるため二世に教えを請うことも。



ミイラ男バルモンド

エジプトの妖怪で、妖怪王家の末裔。野心溢れる性格で、高慢。配下のミイラを従え、地獄の鍵を狙っていた。ほかの西洋妖怪とは仲が良くない様子。



狼男ワイルド

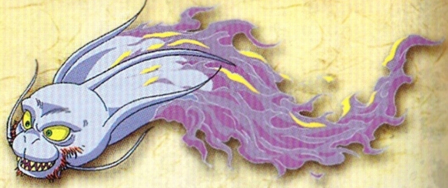
名前に見合わず、化粧をしたりネイルアートが趣味だったりするおネエ系。だが、その実力は五官王と互角に戦える程。ザンビアとはそりが合わない。



フランケン

寡黙な西洋妖怪。ほかの種族が代替わりするなか、現役を貫き通す。自称不死身で、鬼界ヶ島決戦の際は子泣き爺と因縁の対決を繰り広げる。

魔火



フランスの妖怪。火の玉のような姿で、宝玉に宿っていた。ゴーレムを乗っ取って、自在に操っていた。

ゴーレム



本来は優しい性格だが、魔火によって暴走してしまう。子ゴーレムがきっかけでぬりかべとの間に友情が生まれる。

ヨナルデパズトーリ



西洋妖怪の技術開発担当のような存在。いろいろなアイテムを開発しては、ザンビアなどに実験させている。

グレムリン



西洋妖怪の雑兵的ポジション。一匹では弱いが大勢になると厄介な存在で、地獄侵略の際も工作兵として活躍。

妖女ゴーゴン



妖女三姉妹の末っ子。姉たちを出し抜くため、石にした人間の邪心を吸収していた。見た目は美しいが素顔は蛇。

パンサー



鳥の体と人の顔を持つ妖怪。ザンビアに協力して百年鍋を作るが、本当の目的はその力を自分のものにすることだった。

中国妖怪

チー



中国妖怪のリーダー。如意棒で妖怪を反物にし、それを着ることでパワーアップすることができる。

虎男



チーの配下の者。黄虎と白虎がいる。チーの命令で反物にする価値のある妖怪を求めて日本を暗躍していた。

ミンメイ&画皮



美女の姿で南方妖怪を誘惑し、共に鬼太郎を倒すため共闘しようと持ちかけた。実際は巨大な頭だけの妖怪。

南方妖怪

ポ



オナラで空を飛び、語尾に「〜ポ」を付けて話す根明な妖怪。南方妖怪のなかでも特にぼけた性格をしている。

アササボンサン



ひょろりとした背の高い妖怪で、口から吐き出した樹液で鬼太郎たちを琥珀のように閉じこめる。

やし落とし



頭の上に生やした椰子の木の実を地面に落として椰子を生えさせ、日本中を南国化しようとしていた。

ランスブイル



南方妖怪5人衆のブレーン。陽気でボケボケの南方妖怪のなかではまともなほう。長く出た舌で攻撃する。

古今東西妖怪大図鑑

『ゲゲゲの鬼太郎』第5シリーズの後半、第52話以降に登場した妖怪たちを、設定画とともに紹介しよう。初めて登場した話数も掲載。妖怪によっては他の話数にも登場しているので探してほしい。

このマークが入った妖怪は、後に鬼太郎の仲間となり、日本を守るために戦う「妖怪四十七士」として活躍する。

葵
第77話



出羽三山周辺でネコ娘たちを助けた雪女。だがその本当の目的はネコ娘を人質にして鬼太郎を誘い出し、大親友だった真白の仇を討つことだった。動かずの森で修行し、妖力の増強に成功し、雪女の妖力パワーランク一位に。氷柱を槍のようにして投げるのを得意としており、その力は鬼太郎を圧倒した。鬼太郎の真摯な姿勢に打たれて復讐を諦め、妖怪四十七士として覚醒した後はネコ娘にライバル宣言している。

赤舌
第82話

水を支配する妖怪で、水を浄化する力を持っている。飲み込んだ相手から水分を抜き、石にすることができる。水を大切にせず、温泉の乱開発などを行う人間たちに激怒し、辺り一帯の川や温泉を干上がらせていた。



アグリ
第96話

父親を捜すため飛行船を降りたまゆみが南の島で遭遇した南方の精霊。集団で生息しており、まゆみを妖花の元へと連れ去った。一匹ずつだと弱いが集まることで力を付ける。本来は人をさらったりするような妖怪ではないらしい。



アササボンサン
第71話

南方妖怪のひとり。南方妖怪5人衆のなかでは一番背が高く、情報通。舌が常に出ているせいか、滑舌はそんなによくない。喜ぶときは垂直跳びで感情を表現する。口から琥珀のような樹脂を飛ばして攻撃する。



小豆はかり
第83話

小豆を愛する妖怪仲間の集まり、小豆連合のひとり。ふんどし姿で太鼓を持っている。小豆が不作であったため、悪玉小豆を使って人間から小豆を取っていた。鬼太郎を肥料にして小豆畑を蘇らせようとするほど、小豆命。



小豆ばばあ
第83話

小豆連合のひとり。赤いハチマキをして、ザルを背負っている。秘技は、吐き出した小豆から出るつるで相手を拘束する「ジャックと豆の小豆」。小豆のためなら手段を選ばない性格。禁断の戦豆の封印を解いてしまう。



穴ぐら入道
第69話

妖怪世界のファーブルと呼ばれるほど虫に詳しい妖怪。地方の穴ぐら奥深くに住んでいる。狭いところが好きで、社のようなところに収まっていた。「誰さんかな」という禅問答のような質問を相手構わずしてくる。



磯女
第56話

海岸の岩場にいる妖怪。自分のテリトリーが侵されたのを知ると竜巻と共に現れ、髪を自在に操って人を捕らえては海へと引きずり込む。連れ込んだ人間は自分の子供に与えて鼻をおしゃぶり代わりに吸わせ、泣きやませていた。





いそがし
第89話

世間が忙しなくなるお盆や新学期、師走が大好きで、人間が出す忙しオーラを養分とする妖怪。人間が忙しくしている状態も好きで、お腹の縄を人の頭にはめることで自分を見失うほど忙しくさせ、その状況を楽しむことも。



岩魚坊主
第92話

とても徳の高い僧侶で、その法力は猛霊八惨を退けるほど。目玉おやじとは旧知の仲で、妖怪寺でお経を唱えてくれと依頼されることも。せっかちな性格だが、ときに厳しく、そして優しく、浪小僧の師匠として指導にあたる。



後神
第86話

ふと後ろに誰かが居た気配を感じるときは、後神の仕業だと言われている。人の後ろに憑いて回ることに嫌気がさし、自分が気に入ったモデルハウスのような素敵な家を乗っ取るため、妖怪サボテンに家人を喰わせていった。



姑獲鳥
第65話

古文書にも残る封印された大妖怪。ねずみ男の手によって姑獲鳥の石像から解放され、復活を遂げる。その昔亡くした自分の子供を捜し求めるがゆえ、人間の子供の家に足跡を付け、赤ちゃんにしてはさらっていく。



オアシナガオバケクワガタ
第84話

鬼太郎とねずみ男が山中深く採集に行った幻の妖怪昆虫。妖怪なので、秋でも元気。一回り小さいサイズにツノマガリオバケクワガタというのもいる。妖怪世界の昆虫マニアに超高額で売れるほどのプレミア種だ。



お黒　おくろ
第77話



雪女の城で妖怪四十七士を探すとき、ねずみ男の案内役になった雪女。お歯黒をした口しか見えず、お歯黒べったりに声も含めてそっくり。ねずみ男のことを「ハンサムさん」と言って気に入り、嫌がる彼にベタベタしていた。

長壁姫　おさかべひめ
第99話



亀姫とお互いどちらの技が豪華かを競う見栄の張り合いをしていた姫君。前回は瀬戸内の島をひとつ消し去り、亀姫に勝った。今回は年月をかけて磨きに磨いた竜巻の技で勝負することにし、竜巻をもっと派手にするために琵琶湖の水をすべて吸い上げて水竜巻を作り、亀姫の待つ福島を目指して姫路から北上した。気位も妖力も飛び抜けて高いため、人間の命をなんとも思っていないところがある。

火車　かしゃ
第90話



横丁一のお餅好き。激情家で、すぐ頭に血が上って怒ったり泣き出したりする。鬼太郎のことをヒーロー気取りだとして突っかかることもあるが、目玉おやじのことは恐れつつも尊敬している。他人と意識を入れ替える能力を持つ。

画皮　がひ
第76話



チー配下の中国妖怪で、ミンメイの正体。首だけが浮いた姿で、口から突風を出したり紙に描いたものを物質化する能力を持つ。本人は画皮の時のほうが美しいと思っている。鬼太郎に倒され、チーに反物にされてしまう。

亀姫　かめひめ
第99話



長壁姫と200年に一度、妖怪で一番の姫を決めるため、「雅比べ」をしていた姫君。城を壊してビルを建てる代わりに、毎日人間をひとりビルの屋上にある天守閣へ奉納するという契約を地主と交わしていたが、それが守られなかったために、式神のような女御姿の手下を使い、人間の魂を集めていた。それも、人魂を提灯にして灯すという技で長壁姫に勝たんとするためだった。

祇園王　ぎおんおう
第68話



十三王のひとり。背が低くヒゲが生えたカエルのような見た目で、左手には身の丈にあった一本槍を持っている。地獄大王庁主催の「地獄一クイズ大会」で五道転輪王と共に出題者を務めていたときは結構ノリノリだった。

吸血鬼エリート ジョニー　きゅうけつきえりーと　じょにー
第54話



自分の名声を高めるため、霧の中のジョニーという名で予告状を出し、世界各国の国務大臣を襲っている吸血鬼。ギターの音色で自分以外の者を操ることができる。吸血鬼のなかでもエリートで、ほかの吸血鬼にも恐れられる存在。集めた血は使役のコウモリに保管させ、エリートの証としてコレクションしている。コロリポンという薬で鬼太郎を溶かしてしまう。その正体は巨大なコウモリ。

吸血樹　きゅうけつじゅ
第94話



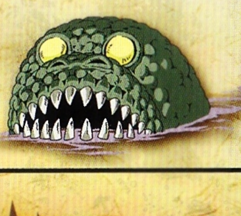
南方に生えている、木の根で捕まえた獲物の血を吸う植物の妖怪。1000年前に封印されたはずだったが蘇った。以前の力を取り戻すため、シーサーに毒を注入して操り、四十七士と偽わらせて鬼太郎を罠にはめようとした。

経凛々　きょうりんりん
第91話



本来は、良いお経から生まれた経文の妖怪。一つ目小僧が働いていた会社が、妖怪とは知らずデジタル化して復元したことにより蘇る。不完全な体を元に戻すため、データの代わりに人間を取りこんで復活しようとする。

グハ
第96話



死の国の入り口である、三日月型の島の守り神。無断で聖域を侵す者を森の霊たちを使って追い払っている。大きくまん丸い目はスポットライトのように強い光を放つ。また、開いた口は光と共に映像を見せることができる。

首かじり　くびかじり
第79話



山中で呼子の頭をその大きな口でかじった妖怪。呼子が蒼坊主に頼んで、妖怪封印の修行を行った際、蒼坊主が手配書の中から選んだ一番弱そうな相手。逃げまどう呼子を助けるため、蒼坊主によってお札を貼られて封印された。

くびれ鬼　くびれおに
第62話



「自分が取りついた相手はひとつの思いに囚われる」という能力を生かし、「死にたい」と言った人間を襲い、本当の絶望を見せようとする。「死の世界」に、人間たちを無理やり引きずり込み、彼らが苦しむ様を見て楽しんでいた。

グレムリン
第59話



大群となってテレビ局を襲い、人間界を混乱に陥れた。個体としての力は弱いが、地獄に侵入した際は、宋帝王に扮した初代ドラキュラの協力を得て密かに時空トンネルを作り、西洋妖怪たちを招き入れることに成功した。

毛亼

第75話

少子化で人数の減ってしまった見上げ入道の妖怪学校に通っている妖怪。ねずみ男に勧誘されて入学したようで、落第するとあの世行きだと聞いたときは人間の子供である小林同様に驚いていた。常に腕を組んでいる。



ケルベロス

第99話

亀姫の城に飼われている、とてもどう猛な西洋の妖犬。頭は3つで胴体はひとつ、尻尾は蛇になっている。亀姫からはペットの犬扱いされていて、城に侵入した鬼太郎を襲うも、体内電気で気絶させられてしまった。



ゴーレムと子ゴーレム

第87話

チェコの伝説の巨人で、魔法学者が生み出したロボットのようなもの。バックベアードら西洋妖怪の秘密兵器。漂着した島でぬりかべと出会い、修理してもらったことから友情が芽生えた。優しく人を思いやる心を持っているが、コントローラー次第で悪事を働いてしまうことも理解しており、有事の際は自分を止めてもらうようぬりかべに頼んでいた。子ゴーレムは、彼の親指が別の意志を持ったもの。



黒雲坊

第100話

3000年もの間、群馬にある岩に封印されていた邪悪な天狗。息子である黒鴉を「お前の本性はすさまじいまでの悪だ」と洗脳し、悪の限りを尽くそうとしていた。黒鴉の右腕のアザを通じて乗り移り、彼を意のままに操ることができるのを利用して人質をとり、かつて自分を封印した大天狗に復讐しようとする。大天狗に勝るとも劣らない強大な法力を持ち、天狗傀儡のほかに松明丸や水龍丸をも使役する。



牛頭

第68話

閻魔大王に仕える牛頭人身の地獄の獄卒。馬頭とセットでいることが多い。西洋妖怪が攻め込んできたときは、地獄を守るため手に持った刺又で応戦していた。その力はジャック・オ・ランタンなどと渡り合える程度のようだ。



五道転輪王

第68話

地獄を守護する十三王のひとり。「地獄一クイズ大会」のときは、祇園王と共に妖怪たちに問題を出していた。一般的には死後の十三仏のうち、阿弥陀如来が姿を変えて現れた形とされている。僧侶のような袈裟が特徴。



さら小僧

第66話

凶暴な性格の妖怪。彼が歌う「ぺったらぺたらこ」という歌は雨乞いの歌である。そのメロディを気に入ったザ50回転ズがさら小僧の許可も取らずにオリジナル曲とし歌ってしまったときは、街が水没するほどの雨が降った。



慈恩王

第68話

地獄を守る十三王のひとり。右目に傷があるねずみのような姿をしており、いつも蓮華王の頭の上に乗っかっている。十三王のなかでは一番体が小さく、着ている服も裾を引きずるような丈が長いものである。



死人つき

第64話

鹿羽村に伝わる妖怪。日が暮れると死体に魍魎が乗り移り、仲間のところへ帰ろうとする現象。幽霊とは違って死体が動いているので物をすり抜けることはできない。きちんと供養しないと魑魅魍魎が訪れるようになってしまう。



邪鬼

第69話

穴ぐら入道の穴ぐらに生息している妖怪。通常は青く光る個体のない様な気の集まりだが、ひとたび悪い気を吸うと赤く変化、表情もあくどくなる。穴ぐら入道と共に外界へ出たときは大きな塊となり、巨大な力を得た。



樹木子

第67話

古戦場の跡などに生まれる吸血樹の妖怪で、蒼坊主が封印に乗り出すほど凶悪。普段は普通の木とまったく見分けが付かないのを利用して久美たちの小学校にも潜伏していた。人間を襲い、巻き付けた枝を腕に刺して吸血する。



笙の怪

第57話

平安京でお化け狩りから逃げる、魑魅魍魎たち最後尾にいた付喪神のひとり。元は、日本の古典楽器である笙。鼓の怪に続き、陰陽師の式神(実は化け灯籠の能力)に捕まり、灯籠へ姿を変えさせられてしまった。



初江王

第68話

閻魔大王を筆頭とする地獄の十三王のひとり。グリーンの衣冠束帯を身にまとった黒ヒゲの男。ときとして大きなまさかりを担いでいることも。人型ではあるが耳が尖っており、顔も若干赤みを帯びている。



初代ドラキュラ伯爵

第68話

伝説の西洋妖怪で、ドラキュラ一族の始祖。すべての吸血鬼の頂点に立つ男。ドラキュラ三世の憧れの存在。親友であるバックベアードから依頼され、数十年もの間、宋帝王に化けて地獄を攻め落とす機会を伺っていた。



白うねり

第58話

小学校の旧校舎にいた雑巾のような妖怪。当初はギュギュと呼ばれ、小学生たちにペットのように可愛がられる。しかし、極端に汚れたせいで急速に成長し暴走してしまう。鬼太郎たちに汚れを落としてもらい、元の姿に戻る。



白坊主

第90話

火車と共に輪入道の運送屋「ひのわや」で働いている。寡黙で横丁ではあまり存在感のないキャラクター。それを生かして火車の状況を輪入道に報告して危機に駆けつけるなどの活躍も。妖怪四十七士のひとりで、大阪府代表。



秦広王

第68話

地獄に西洋妖怪が攻め入ってきたとき、大王庁上空に最後の砦となる結界を張っていた十三王のひとり。灰色の束帯を着て冠を被っている。五官王と宋帝王を抜かして、都市王の次に大きく、垂れたブルーの瞳が特徴。



水龍丸

第100話

松明丸と共に黒雲坊の法力により使役されていた妖怪。龍のような形だが口は大きく裂け、複眼が両脇に6つずつある姿をしている。黒雲坊の命令により、大天狗が支配する群馬の温泉郷を破壊せんと襲った。



先代オオカミ男

第68話

20年前、鬼界ヶ島を襲ったオオカミ男。地獄超決戦の際は、地獄からカラスの森にある地獄岩を通じて横丁に侵入し、鬼太郎たちを待ち伏せていた。仲間内でいるときは、オカマになってしまった息子を憂う父親らしい面も。



泰山王

第68話

地獄を守る十三王のひとり。仙人のような容貌をしていて、木製の杖を手にしている。瞳は長く伸びた眉毛で隠れて見えない。手首に包帯のようなものを巻いている。一般的には薬師如来の地獄での姿だといわれている。



だるま

第93話

100年前から石垣ビルヂングビルの4階を借りて、妖怪たちに美術品を売っていた妖怪。取り壊しに反対し、夜な夜なオーナーの元を訪れて説得を試みていた。階段は転がって降りる。笑いのツボである子だるまは色が白い。



タンコロリン

第85話

柿を取らずに放っておくとタンコロリンになるという言い伝えがある。ぬらりひょんに脅されたねずみ男の手引きで連れ去られ、妖怪城のエネルギー源として吸収されてしまう。妖怪四十七士のひとりで、宮城県代表。



たんたん坊

第61話

妖怪城を己の物とするべく企んだぬらりひょんに騙され、封印が解けた妖怪城に食べさせる生贄の子供を近所の村に要求していた、妖怪城の主。鬼太郎に獄炎乱舞で倒されたことで、妖怪城の操縦装置はぬらりひょんの物となってしまう。



チー

第63話

中国妖怪。虎男に如意棒を貸し与えて日本妖怪を反物にして回ったり、ミンメイに鬼太郎を倒すよう命令したり、中国妖怪が起こす事件はほとんど彼が黒幕。「～アル」という中国っぽい口調で話す。妖気の強い妖怪から上等な反物を作ってコレクションしており、それを纏うことでその妖怪の力を使うことができる。鬼太郎が反物に変えられた際は、それをとても気に入っていた。



魑魅魍魎

第64話

死人つきに呼ばれ、鹿羽総合病院へ彼女を迎えに来た者たち。朝日と八角円に弱い。特に朝日は大の苦手なため、一番鶏が鳴くと退散するようにしていたが、鬼太郎の作戦に引っかかって朝日を浴び、倒された。



辻神

第74話

家に入り込む一種の疫病神だと言われている。一反もめんにキバとツノをつけたような、よく似た風貌の妖怪。鹿児島に出現し、とある大家の息子を自分は守り神だと言ってたぶらかして石敢當を無力化させ、日本征服を企んでいた。



ツチノコ
第79話

人間が言うほうの「ツチノコ」。たびたび懸賞金がかかって捜索ブームになる未確認生命体。見つけたら賞金200万円。腹の膨れた蛇のような形をしている。人間が獲物を飲み込んだばかりの蛇を新種の生き物と見間違えたものと言われている。



槌の子
第79話

本物の「ツチノコ」。一つ目の化け物で、巨大な頭は鉄球のように頑強なうえ、とてつもない猛毒を持っている。噛まれたら大抵の者は死に至る。その昔自分に害をなした人間を末だに恨んでおり、その子孫に復讐しようとした。



鼓の怪
第57話

鬼太郎がタイムトリップした平安京で、お化け狩りをする陰陽師から逃げまどっていた鼓の付喪神。宙に体を浮かせて必至に逃げていたが陰陽師の式神に捕らえられ、あわれ石灯籠へと姿を変えられてしまった。



豆腐小僧
第90話

妖怪横丁で豆腐屋を営んでいる妖怪。笠を被った小僧の容貌で、手には紅葉豆腐を持っている。顔は一つ目小僧に近い。なにか騒動を起こすでもなくのんびりと横丁ライフを満喫している。餅騒動のとき、火車の噂をぬっぺほふとしていた。



都市王
第68話

地獄を統べる十三王のひとり。三日月型の刃物を鎖で繋いだものを持っている。赤ら顔のかなりの巨漢で、五官王よりも大きい。そのためか、画面から見切れていることも多い。発言の機会は少なく、あまり喋らない。



土精
第64話

鹿羽村に死人つきを迎えに来た魑魅魍魎のひとり。結界を見破ることができる目を持っているが、いつもは厚い顔の皮に覆われている。ほかの魑魅魍魎に皮をめくってもらうことで八角円結界のなかにいた泰造を発見した。



虎男
第63話

中国妖怪・チーの手下たち。チーから如意棒を借りて日本妖怪たちを反物にしてまわった。だが、チーの好みを考えずに手当たり次第に妖怪を襲ったため、「柄がありきたりだし質もいまいち」と仕事ぶりに対する評価は低かった。



泥田坊
第70話

田んぼに棲む泥の妖怪。住処である田んぼを住宅に変えられてしまったため、「田を返せ」と言って入居者を襲っていた。乾燥に弱い。口から泥を吹き飛ばして攻撃する。人間がその泥を浴びると意識不明になってしまう。



なまはげ
第85話

妖怪城に食べられ、エネルギーにされていた妖怪。秋田県代表の妖怪四十七士。ミノにわらぐつ姿で、右手に柄杓と手桶を持っている。「男鹿のナマハゲ」として国の重要無形民俗文化財にしていされていて、その行事は他県でも有名。



浪小僧
第92話

常にサーフボードを持っている海辺の妖怪。舌足らずで「す」が「しゅ」などになってしまう。法力で猛霊八惨を退けた岩魚坊主の姿に憧れ、弟子入りを頼み込む。両親が猛霊八惨と戦いに敗れ、倒されてしまった過去を持つ。怖がりで泣き虫だが、本当は勇気に満ちあふれており、もっと強くなって両親の仇を討ちたいと思っていた。水を操って小さな体に見合わぬビッグウェーブを作ることができる。



鵺
第57話

いろいろな動物が混じった容貌をしていると想像されていた、正体不明の妖怪。鬼太郎の出会った鵺は麒麟のような姿だった。平安京ではほかの妖怪に恐れられているのを自覚してか、表舞台には出たがらなかった。



ぬっぺほふ
第90話

妖怪横丁に住んでいる、皮がたれた肉の塊に手足が付いたような見た目で、相づちを打つ時は「ほふほふ」言っている。はたおんりょうが餅を盗んだ騒動の際は、火車のせいではと、豆腐小僧と噂話をしていた。



猫ショウ
第97話

人間界で猫が大暴れする事件の黒幕。人間界を猫の世界にしようとしていた。三つ叉の尾を持つ猫の妖怪で、生まれてすぐに捨てられたことから、人間を恨むようになる。猫しか入れない「猫街」を作り出すほどの妖力を持っている。



寝太り
第80話

いつもはスリムな美女だが、男性と食事をしている時に幸せな気持ちになると異常に食欲が湧いてしまう。お腹が満たされると今度は眠くなり、寝ている間にどんどん太って謎の爆発事故を引き起こしていた。本人に寝太りの自覚はない。



野寺坊 第84話

誰もいないはずの古寺の鐘を鳴らす妖怪。もともと心優しい妖怪で、夜に鳴らす鐘は、子供たちが健やかに成長するのを願ってのもの。森を守護しており、そこに住む生き物たちに言葉を話す能力を与えたこともあって尊敬されている。



ノラ 第97話

猫が長く生きて妖力を持ち、二又の尾になった猫又という妖怪で、白い布を被っている。背中に背負った行李のなかにぎっちり入った薬を売り歩く、行商をしている。富山県代表の妖怪四十七士。猫ショウとは元々兄弟だった。



化け草履 第53話

歩けるのは履き物があってこそなのに、大切にしようとしない人間たちへの復讐に燃える草履の化け物。お化けは人間を怖がらせてナンボだと思っている。ねずみ男と白山坊の興業を利用して履き物の怨みを晴らそうとする。



化け灯籠 第57話

古い灯籠の妖怪で、「陰陽頭」に化けて陰陽師たちを操り、お化けたちを灯籠に変えさせていた。灯籠の炎を通じて色々な場所の映像を見ることができる。雷のすさまじい力を持っている。鵺の悪い噂を流していた張本人。



バケロー 第55話

もともとは百目に仕える杖が意志を持ったものだったが、鬼太郎との戦いで霊魂だけとなり、いまは携帯電話に取りついている妖怪。緑色の一つ目が特徴。「BAK600」という品番からバケローと名付けられる。元主人の百目から人間の子供を守ろうとして傷を負い、それが元で命を落としたかに見えたが鬼太郎たちに助けられた。現在はネコ娘、ねずみ男と共に妖怪四十七士を探す任に就いている。



はたおんりょう 第90話

地面に潜む妖怪。飢えて死んでいった人間たちの魂が怨霊となったもの。何百年かぶりに食べた餅の味が忘れられず、初詣に訪れた参詣客で賑わう浅草寺の仲見世通りでお店からお餅ばかりを盗んでは食べ尽くしていた。



針女 第81話

本来は山に入った男をたぶらかすだけの妖怪だった。しかし、自分が暮らしている山を荒らされるのを嫌い、黒影村の村人の影を取っていくようになる。髪の毛が鉤針のようになっていて、それを影に突き刺すことで相手から奪う。



バリバリ 第60話

妖怪闇市場でねずみ男が手に入れた、卵に入っていた妖怪。体のなかで孵化すると、やる気が出て能力を開花させる。しかし、バリバリ働けるのは始めだけで、そのうち乗り移られたほうの体力が底を突き、やつれて倒れてしまう。



パンサー 第95話

頭は人間で体は鳥型の伝説の強豪妖怪。愛すべきバックベアードのために魔女の秘術「百年鍋」を作ろうとするザンビアに協力し、バレンタインデーを目前に盛り上がった乙女の恋心を集めていた。胸の管から放出した粉で少女たちの理性を奪い、羽で作った膜のなかを甘い匂いで満たして催眠状態にして飴玉に閉じこめる技を用いる。一対一の勝負では鬼太郎を苦戦させるほどの力を持っている。



ヒゴモ 第74話

天狗ポリス鹿児島派出所勤務。凶悪妖怪で指名手配中の辻神と体つきが似ている一反もめんを誤認逮捕する。細かいところにはあまりこだわらない剛毅な性格。「地獄一クイズ大会」の際は、黒鴉と協力して勝ち進んでいた。



美人魔女軍団 第68話

バックベアード配下の美人魔女たち。傷付いたバックベアードの治療と身の回りの世話をしつつ、外で活躍するほかの西洋妖怪たちの動向を報告している。魔女とは言いつつ、ザンビアの一族とは別で、後方支援を担当している。



ヒダル神 第78話

食べ物を粗末にする人間のところへやって来る妖怪。登山に来たカップルが食べ残したままお弁当を捨てたことが許せず、彼らをヒダル神にしてしまった。その後、「だるい、ひもじい、ひだるい」と呟きながら人間の街を襲い、次々と仲間を増やしていく。ヒダル神に行き会った場合、完全に空腹になる前になにか食べ物を口にすればやり過ごせる。リーダー格のヒダル神は錫杖を持っている。



ひでり神 第73話

ホラー作家志望の天気を操る妖怪。障子の付いた黒雲を移動手段兼自宅としていて、執筆もこのなかで行う。読者を求めて、ねずみ男に人間の出版社との渡りを頼んだ。その作品は、ねずみ男だけでなく鬼太郎も怖がる恐ろしさ。



一つ目小僧
第91話

夜道ですれ違った人間を一つの目玉で驚かせる、江戸で一番有名な妖怪。現在も東京に住んでいる、東京都代表の妖怪四十七士。人間社会に溶け込んで暮らすことが好きで、ハイテクメーカーの最大手であるKCCに就職。一つ橋という名で、日本古来からの芸術作品や古文書の復元担当として働いていた。空中に書いた漢字の意味を物や人に持たせることができる。同僚の美也子に惚れられていた。



百目
第55話

その昔、鬼太郎に倒され、封印されていた妖怪。100の災いを引き起こすと言われている。ねずみ男によって封印壺から解放される。完全復活を遂げるために優秀な子供の目を集めていた。バケローが杖だった時代の主人。



平等王
第68話

十三王のひとり。いつも笑っているかのような細い目をしていて、長い亜麻色の髪を垂らしている。手に持つ武器は長剣。十三王すべてに共通することだが、笑いの沸点が低く寒いダジャレでも口を開けて爆笑する。



琵琶の怪
第57話

平安時代の京都の街で、鬼太郎が出会った琵琶の付喪神。化け灯籠扮する陰陽頭のせいで退治されそうになるも、かけつけた鬼太郎に救われる。そのことに恩を感じて、その後鵺に会いたいという鬼太郎のナビゲーターとなる。



文車妖妃
第98話

本に取りつく妖怪。人間が本を読むことで本に宿る想いと遊ぶことが好き。人間の子供が全然本を読んでいないことを嘆いていたとき、唯一読み込まれていた「モンモンモンスター」というゲームのガイドブックに目を付け、ゲームを使って子供たちを異世界へと引き込んで楽しんでいた。ゲームの世界の魔女・マヨウもフグル姫も大元は彼女。悪の心に支配されていたときは老婆の姿だったが、本当は少女の妖怪。



二口女
第61話

たんたん坊の手先で、パトカーを襲って送電線に投げつけ、村一帯を停電にした。髪の先が蛇のようになっていて、触手のようなそれを自在に動かして攻撃する。後ろの口で鬼太郎を食べようとするが、体内電気に敗れる。



変生王
第68話

地獄の十三王のひとり。褐色の肌とモスグリーンの髪を持つ美人。はきはきとした喋り方から、さっぱりした性格が伺える。妖怪たちがいかに地獄を理解しているか判じる方法として「問いつめる」という案を出した。



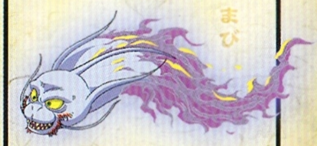
ポ
第71話

南方妖怪5人衆のひとり。青色の体をしていて、南方妖怪で唯一空を飛ぶことができる(オナラで、だが)。口癖は名前の通り「ポ」で、語尾に付けることもある。口から衝撃波のような丸い輪っかを吐いて攻撃する。



魔火
第87話

ゴーレムを操るコントローラーのなかにいたフランス妖怪。挨拶は「ボンジュール」。ザンビアの命令でゴーレムの頭に取りついて、嫌がる彼に争いを強要して暴れさせた。ゴーレムに乗り移っている限りは不死身である。



見上げ入道
第75話

様々な術を使う、妖怪学校の先生。妖怪の世界にも少子化が進み深刻な生徒不足に陥ったため、ねずみ男に生徒集めを依頼する。黒い封筒のDMに簡単な問題を入れて子供たちを試し、妖怪の才能がある子を妖怪学校へ入学させていた。



ミンメイ
第76話

ねずみ男を使って自分たちに協力してくれる妖怪を探していた、チー配下の中国妖怪。自分の美しさを理解していて、その美貌を利用して南方妖怪たちに色仕掛けを行い、協力を取り付ける。容姿のほか、眼力で洗脳することも可能なよう。



馬頭
第68話

閻魔大王に仕える地獄の獄卒。地獄に堕ちた妖怪たちがきちんと罰を受けるように監視している。馬頭人身で、手には刺叉を持っている。「地獄一クイズ大会」のときは、牛頭と共にアシスタント兼警備として参加していた。



猛霊八惨
第92話

海で亡くなった者たちの霊が妖怪化したもので、海中に引きずり込んだ人間を仲間に変えて勢力の拡大を図っていた。何年かに一度、浪小僧のいる海に現れて人々に襲いかかる。寄り集まって大きな水竜巻を作ることができる。



森の霊
第96話

グハの守る三日月型の島で、許可なく侵入してきた者に襲いかかる霊。南方の派手な仮面のような色合いで、下は髪の毛のようになっている。3種類いて集団で行動し、鬼太郎を数で圧倒しようとした。吹き矢で攻撃してくる。



やし落とし

第71話

南方妖怪5人衆のひとり。椰子の木だけに「キッ」と鳴いている。もちろん、普通にしゃべることも可能。日本中に椰子の木を生やして南国化させていた。攻撃する際は、頭から生やしてる椰子の木を振り回し、その実を飛ばす。



夜道怪

第52話

人間の家の軒先を借りる、不気味な僧の妖怪。闇に沈む能力を持ち、影のなかを自在に行き来できる。大きな頭に傘を被り、大きな荷物を背負っている。人間の子供を次々と行方不明にしたことがあるが、それは軒先を借りた恩返しとしてやったことで、決して楽しんでやっていたわけではない。鬼太郎を圧倒するほどの妖力を持っており、敵に回すと手強いが、ひとたび味方になればこんなに心強い仲間はいない。



家鳴り

第72話

家を揺らしギシギシという音を立てたり、共鳴現象で物を動かしたりする妖怪。妖怪城を完全に目覚めさせるため、ぬらりひょん一家に捕らえられ、集団で妖怪城を揺さぶった。体は小さいが、指が3本であるなど、鬼の特徴を有している。



雪男

第71話

北海道に生息している妖怪。いつもは山中深くにいるが、たまたま海辺を散歩しているときに東京と間違えて上陸してきた南方妖怪と遭遇。頑強な体と怪力を持っていて、一吹きで南方妖怪を凍らせる力がある。



妖花

第96話

普通は南国の島にしか咲かない特別な妖怪の花。種は赤い綿毛で運ばれ、植えると一晩で芽を出し、部屋中をつたで覆い尽くす。白く筋の入った赤い毒々しい花が咲く。まゆみの肉体を異空間へと連れ込んで吸収しようとしていた。



妖怪医者オンレ

第54話

恐山にある妖怪大病院のスゴ腕妖怪医者。コロリポンによって体を溶かされ、液体化した鬼太郎でさえ元に戻す技術を持つ。治療代として現金で1億円を要求するほど金にがめついが、それに輪をかけて天然物の鮎に目がない。



妖怪サボテン

第86話

ゲゲゲの森に生えている人食いサボテン。ねずみ男が露店で売っていた物を、サボテンが大好きな真奈美の父親が買ってきたことで後神にその習性を利用される。花の部分が口になっており、花弁を広げて獲物を捕食する。



妖怪城

第61話

本来の主はたんたん坊だったが、彼からコントローラを奪ったぬらりひょんを「父上」と言って慕うようになる。強くなるための妖力源となる妖怪ばかりでなく、自分の花嫁をも欲しがるくらい欲が強い。炎、風、土、水の属性を持つ4体の龍を従えている。鬼太郎の妖力を吸収したことで触手のような足が生え、完全体となる。四十七士の力を借りた鬼太郎の獄炎乱舞を受けて中から燃やされてしまい、今まで取りこんだものがはがれ墜ちて海に沈んでしまった。







ヨナルデパズトーリ

第68話

志半ばで倒れた初代ドラキュラ伯爵に変わってバックベアード率いる西洋妖怪たちのブレーンとなった妖怪。魔道具の研究が好きで、様々なアイテムを開発している。謎めいた存在で、その能力はまだ底知れないものがある。



羅生門の鬼

第57話

平安京の南にあり、日暮れと共に閉まる羅生門に棲む鬼。羅生門にはお化け除けの結界が張られているが、楼閣の上は平気なようで、お化けたちの避難場所となっている。全身緑色でツノはない。下顎のキバが発達している。



ランスブイル

第71話

南方妖怪5人衆のリーダー的存在で、天然ボケばかりな南方妖怪たちのなかでは一応ツッコミ担当。南方出身だけあって、雪男に氷漬けにされたときは「冷え性なんだ！」と怒っていた。模様が入った舌を伸ばして攻撃する。



リンゴロー

第85話

青森の天狗ポリスのひとり。田舎くさい顔をしていて、バリバリの青森弁でしゃべる。治安を守ろうとする気持ちは人一倍で、妖怪城にも果敢に立ち向かう。黒鴉らと協力し、天狗の法力を使って炎龍と戦っていた。



蓮華王

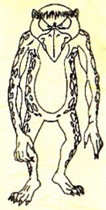
第68話

十三王のひとり。清朝帽を被った小柄な少女のような外見で、通常は玆恩王を頭に乗せている。身の丈ほどもあろうかという大きな盾を担いでいることから、見た目よりも力持ちのようである。口元は白布で隠している。



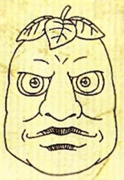
ご当地！妖怪四十七士紹介

第5シリーズに登場したご当地妖怪四十七士を一挙に紹介しよう。TVシリーズに出て来なかった妖怪は、劇場版でその姿を現していたぞ！

1 北海道代表 ミンツチ


2 青森県代表 赤舌


3 岩手県代表 座敷童子


4 宮城県代表 タンコロリン


5 秋田県代表 なまはげ


6 山形県代表 雪女（葵）


7 福島県代表 亀姫


8 茨城県代表 わいら


9 栃木県代表 雷獣


10 群馬県代表 天狗（黒鴉）


11 埼玉県代表 夜道怪

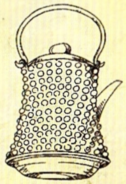

12 千葉県代表 かぶきり小僧


13 東京都代表 一つ目小僧


14 神奈川県代表 みかり婆

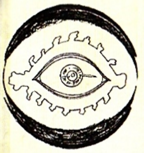

18 福井県代表 若狭の人魚


19 山梨県代表 小豆洗い


20 長野県代表 ヤカンズル


21 岐阜県代表 岩魚坊主


22 静岡県代表 浪小僧

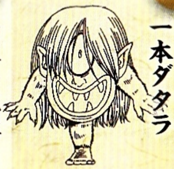

24 三重県代表 一目連


25 大阪府代表 白坊主


26 京都府代表 輪入道


27 滋賀県代表 鉄鼠


28 奈良県代表 砂かけ婆

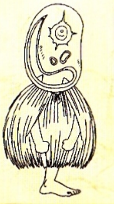

30 和歌山県代表 一本ダタラ


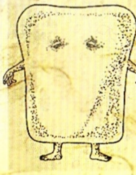
31 鳥取県代表 呼子


32 島根県代表 火車


33 岡山県代表 すねこすり

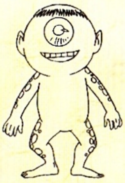

34 広島県代表 おさん狐


39 高知県代表 山爺


40 福岡県代表 ぬりかべ


41 佐賀県代表 ひょうすべ


42 長崎県代表 磯女


43 大分県代表 セコ


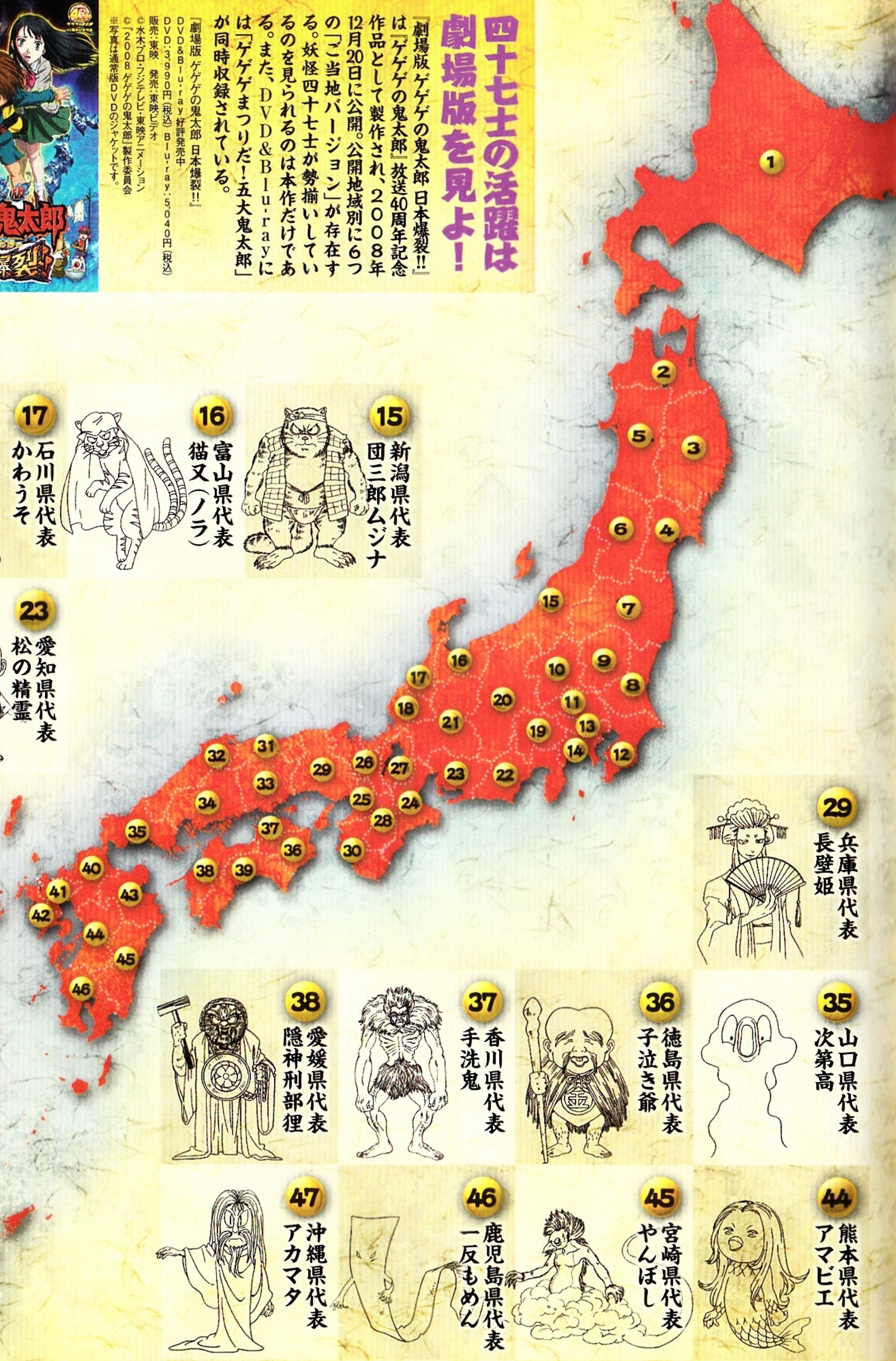


四十七士の活躍は劇場版を見よ！

『劇場版 ゲゲゲの鬼太郎 日本爆裂!!』は『ゲゲゲの鬼太郎』放送40周年記念作品として製作され、２００８年12月20日に公開。公開地域別に６つの「ご当地バージョン」が存在する。妖怪四十七士が勢揃いしているのを見られるのは本作だけである。また、ＤＶＤ＆Ｂｌｕ-ｒａｙには「ゲゲゲまつりだ！・五大鬼太郎」が同時収録されている。

『劇場版 ゲゲゲの鬼太郎 日本爆裂!!』
DVD&Blu-ray好評発売中
DVD：3,990円(税込) Blu-ray：5,040円(税込)
販売：東映 発売：東映ビデオ

※写真は通常版DVDのジャケットです。



15 新潟県代表 団三郎ムジナ

16 富山県代表 猫又（ノラ）

17 石川県代表 かわうそ

23 愛知県代表 松の精霊

29 兵庫県代表 長壁姫

35 山口県代表 次第高

36 徳島県代表 子泣き爺

37 香川県代表 手洗鬼

38 愛媛県代表 隠神刑部狸

44 熊本県代表 アマビエ

45 宮崎県代表 やんぼし

46 鹿児島県代表 一反もめん

47 沖縄県代表 アカマタ

鬼太郎 第5シリーズこぼれ話 2008TVシリーズ編

大好評だった桃屋とのコラボCM第3弾のほか、鬼太郎ならではの商品展開についてもここで触れておきたい。

豪華!! 桃屋「ごはんですよ!」CM

『ゲゲゲの鬼太郎』のキャラクターがのり平に変身してしまうという、インパクト大のCM。TV放送当時、本編中だけでなくCMの間も鬼太郎たちが我々を楽しませてくれるとあって、この試みはファンに衝撃を与えつつも嬉しい悲鳴をもって受け入れられた。今回は第3弾となる「妖怪会議編」を紹介。遂に鬼太郎ファミリー全員のり平化…!?

妖怪会議編



人間社会に必要なのは「愛!」と即答するネコ娘。



いろんな意見が出るなか、鬼太郎の顔に変化が…!



やっぱり、「ごはんですよ!」ですよね!



「じゃ、そういうことで」と言ったおやじさんものり平に…!

バラエティーに富んだグッズ展開!

本編中に登場したパンが実際に販売されるなど、新しい試みが多数行われた第5シリーズ。昔ながらのゲゲゲハウスやジオラマ風フィギュアはもちろんのこと、イマドキアイテムも各社から多数リリースされた。現代の技術がなせるハイテク玩具からキャラクターソングCD、アイデア満載の面白グッズまで、バリエーションに富んだ商品ラインナップを一部ご紹介しよう!



❶サントラだけでなく、キャラクターソングCDがリリース! それぞれがオリジナルの曲を熱唱した。



❷鬼太郎や目玉おやじ、ねずみ男に変身できるパーティーグッズ。大人も被ることができる。



❸鬼太郎パンシリーズ。ちゃんちゃんこサンドなども販売された。シールも同封されていた。



❹バンダイから発売されたバケローことBAK600。目玉が光り、鬼太郎たちと電話することができた。



❺マクドナルドのハッピーセットでも鬼太郎たちが登場。大人も欲しくなるできばえだった。



❻「トントン目玉おやじ」。衝撃を与えることでおやじさんとコミュニケーションをとることができた。

❶「いたずら」鬼太郎／「NADE・NADEして」ネコ娘／「裏路地ブルース」ねずみ男／「子泣きのララバイ」子泣き爺／「夢のリフォーム大作戦」砂かけ婆／「おいどんてんがらもん」一反もめん／「かぞくがいちばん」ぬりかべ（キングレコード）❷鬼太郎／ねずみ男／目玉おやじ（オガワスタジオ）❸ゲゲゲの鬼太郎のチョコチップメロンパン／目玉おやじのあんぱん／ネコ娘のクリームパン（ヤマザキパン）❹DX携帯妖怪バケローBAK600（バンダイ）❺ハッピーセット『ゲゲゲの鬼太郎』（マクドナルド）❻トントン目玉おやじ（バンダイ）

ゲゲゲ出張かわら版

2010年8月27日

出張!! 蔵出し初期設定集・其の零!? ……のつづき

どうも人間の皆さん、またお会いできました。ありがとうございます。

まずは前回の続き…ということで、一ツ橋さんの知られざるもう一つの顔?をご紹介です。

当初は人間に化ける設定があったのか、妖怪姿のほかに人間姿も描かれていたんです。KCC社の仲間には、もしかしたらこんな姿に見えていたのかもしれませんね。



そして今回は紙面も増えて大盤振る舞い。鬼太郎とネコ娘の初期設定を、キャラクターデザインの上野ケンさんから頂いたコメントとともにお届けしちゃいます!



⇦「幼い感じのAタイプ。ヒーロー性を強めて3期を意識したBタイプ。1期というよりは原作イメージのCタイプ…ともう一つの4つを最初に出しまして、Aタイプが最終的に基本形となりました。下駄が大きめなのは、『子供が大人の下駄を履いた』というイメージ。今までの鬼太郎は子供用の下駄を履いていたので、下駄の印象を強くして差別化を図ろうとしました。幼い感じにしたんですが、2年目の後半あたりはだいぶCタイプ寄りになってましたね。」



⇦「最初に出した原作寄りのデザインです。これで行くことになってたら、また違った雰囲気になっていたかもしれませんね。ただ、今ほどのヒロイン性は出なかったかも(笑)」

⇩「そしてこちらが『落書き』として出したもの。10歳くらいのイメージで始めましたが、反響やスタッフによる私服着せ替え、コスプレなどの(いい意味での)遊びでヒロイン性が増していきました。それに応えよう…というわけではないですが、2年目からは描き込みをしなおして新設定を起こしました。10歳が最終的には16歳くらいの印象になっちゃいましたね(苦笑)」



こうしてスタッフ内にも浸透していったそれぞれのキャラクターたち。1年目(BOX1)と2年目(BOX2)を見比べて、その雰囲気の違いを探してみるのも面白いかもしれません。

このほかにも、目玉おやじやねずみ男。初期のイメージイラストなども交えてのお話があったのですが…残念ながら時間切れ。またどこかで、お許しが出ればいつものかわら版でもご紹介出来ればと思ってます。

ではまたいずれ。灯篭の火はまだまだ消えませんよ!

ゲゲゲの鬼太郎 スペシャル座談会 PART2

DVD-BOX1に引き続き『ゲゲゲの鬼太郎』第5シリーズを支えた4人のクリエイターが、本作について大いに語り合った。後編の今回は、妖怪横丁やその住人たち、第5シリーズならではの人気キャラクター、新展開だった「妖怪四十七士」にまつわる秘話にまで話が及んだ。

高山みなみ（鬼太郎役）
櫻田博之（企画／プロデューサー）
三条 陸（シリーズ構成／脚本）
貝澤幸男（シリーズディレクター／演出）

高山みなみ



たかやまみなみ：東京都出身。'87年年声優デビュー。『ミスター味っ子』の主人公・味吉陽一役で初主演を果たす。'89年には映画『魔女の宅急便』の主人公・キキ役に大抜擢され、声優としての地位を確立。『忍たま乱太郎』（'93年～）の乱太郎役、『名探偵コナン』（'96年～）の江戸川コナン役は共に15年以上にも及ぶハマり役となった。『デジモンクロスウォーズ』（'10年～）の工藤タイキ役。

●第5シリーズの鬼太郎ファミリーについて

――高山さんは晴れて、田の中（勇）さんから「おい、鬼太郎！」と呼ばれる、数少ない栄冠に輝いたわけですが、いかがでしたか？

高山　最初はもう、こんなに感激なことはないと思いました。多分、日本人だったら誰でも「父さん（目玉おやじ）」とは共演したい、話してみたいと思うでしょうし。田の中さんの声で「鬼太郎！」と呼ばれたときに、私の中の鬼太郎像が完全に出来上がりました。

『ゲゲゲの鬼太郎』というタイトルなんですけど、主役はほぼ父さんだった感じですね。お話が父さんに吸収されていってしまう（笑）。「萌えキャラ」という言われ方がすごく納得いきます。萌えない人はいないですよね（笑）。田の中さん自身も「大変」と言いつつすごく楽しそうに演じていらっしゃいましたし。

――高木渉さんのねずみ男像も今までにない、新しいイメージになりましたね。

三条　高木さんはホントに良い人なので（笑）。高木さんは現場にわりとギリギリで来るときもあるんですけど、すごく早く入って来るときがあって。ねずみ男が主役の回とかねずみ男のセリフが多いと早く来るんです（笑）。「あれ、緊張してるんだよ」なんてみんなで言ってました（笑）。

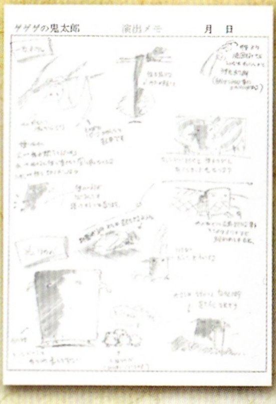
高山　それに緊張してると、どんどん姿勢が前のめりになるんですよ。「今日はセリフが少なくて余裕だ」というときは、イスの背もたれに背中がついてるんですけどね（笑）。渉とはデビュー当時からずっといろいろな役で共演してきて、ほとんど一緒のレギュラーが切れたことのない相手なんです。だから割とお互いに良く解っている部分があって、今回も「ねずみ男決まったんだよ、オレ」という話を聞いて、お互いに喜んで「これで安心してできるね」なんて話してたんです。ギリギリになりそうなときには、私にメールが入るんです。「今、電車の中で走ってます」って。「電車の中は走らんでいい！」と返してから、「すいません、今、ねずみ男が電車の中で走ってます」とスタッフやキャストのみなさんに伝えたこともあります。

――そういうところも鬼太郎とねずみ男の関係そのものですね（笑）。

三条　だからか、今回のねずみ男は高木さんに影響されましたね。すごく高木さんっぽくなったというか。

高山　そうですね。彼はねずみ男に対して想い入れが強くて、セリフをカットするというときには、「でもさ、オレやっぱりこれ、カットしたくないんだけどさ」って相談に来るんですよ。スタジオのなかでね。それで次は演出さんのところに行って相談をする。みんなそれぞれに、役柄に対してのこだわりと思いがあったので、よくディスカッションしてました。





本解説書ではおなじみ貝澤メモより、一反もめんとぬりかべに関する設定メモ。ぬりかべが妻子持ちという設定はこの時点で既に登場していた



同じく貝澤幸男による目玉おやじの設定メモ。既に「みかん風呂」などのアイデアが描き込まれており、おやじの風呂バリエーション案が垣間見える

櫻田博之



さくらだ・ひろゆき・95年、東映動画（現・東映アニメーション）に入社。代表作は他に『まもって守護月天！』（98年）、『デジモンアドベンチャー』（99年）、『ののちゃん』（01年）、『金色のガッシュベル!!』（04年）、『ガイキングLEGEND OF DAIKU-MARYU』（05年）、『祝！（ハピ☆ラキ）ビックリマン』（06年）、『デジモンクロスウォーズ』（10年～）など

●かわうそへの想い入れ

——かわうそ（声：丸山優子）が妖怪横丁の住人に至るまでの経緯をお聞かせください。

三条　かわうそはなんとなく雰囲気で出したというか、ただ僕が好きだから出しただけなんですが（笑）。原作の「オベベ沼の妖怪」が大好きで。ただ、鬼太郎の弟分のような存在は欲しかったんですよ。

　第2話で妖怪横丁が本格的に出てきて横丁に住む妖怪たちの関係がはっきりしてくる。その中で、常にトラブルに関係するねずみ男は、横丁にいても、人間界にいても、いろいろ言われちゃう存在ですよね。

櫻田　そんなねずみ男を鬼太郎だけはフォローしてくれるっていうね（笑）。

三条　そうなんです。鬼太郎はなんだかんだ言ってフォローするわけだけど、でも横丁の中にはそれを教えてくれる人がいない。砂かけ婆や目玉おやじはあまり気にしていないから。だから「ねずみ男はがしゃどくろのビルにいるからなんか嫌な感じがするよ」と忠告する奴がひとり必要で、「これはかわうそだろう」となんとなく思っていたんですよ。「オベベ沼」の話が前提にあり、かわうそがイタズラをしたときに鬼太郎が許してやる。昔そういうことがあった関係から鬼太郎の弟分みたいな奴が横丁にいて、そいつが言うのが一番良いと思って「かわうそ」と書いたんです。

●人気キャラクター・蒼兄さんの誕生秘話

——第5シリーズならではのサブキャラクター、蒼兄さんこと蒼坊主（声：古川登志夫）を登場させた狙いは？

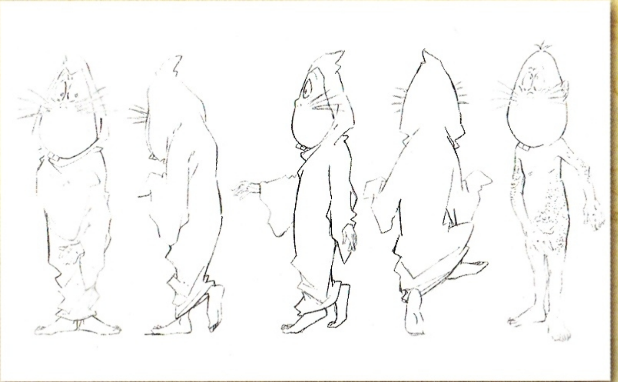
三条　狙いとしては、妖怪横丁という社会の中にいない人という風に考えて配置しました。「鬼太郎には兄貴分がいないよね？」と。ひとつの家族というか、横丁という村落でこれからいろいろドラマを発信していかなきゃいけないときに、パーツとして現実の人間社会にいないパーツがあるとそこからデバイスが出しにくいじゃないですか。そういう意味では「こういうタイプのキャラクターは今のところ横丁にいないな」というところから新キャラクターを追加していくと、多分うまく回るし、話の幅が広がると思いまして。

櫻田　蒼坊主に関しては、大事なキャラクターで且つ技師で鬼太郎に次ぐ奴がいなかったので、「カッコ良いのがひとりいたほうが良い」と思って意図的にそうしました。意図的にカッコ良くしたので、今度はカッコ良過ぎないように絶対的な弱点を作らないといけないと思って、方向音痴で肝心なときに来ないという設定を加えたんです（笑）。

貝澤　蒼坊主に鬼太郎の師匠的存在を振ったお陰で、鬼太郎と目玉おやじの関係が師弟ではなく「親子」としてずっと維持できたところはありましたね。

高山　ファザコンですものね、鬼太郎。そういう風に演じてたしなぁ～（笑）。





上野ケンによるねずみ男の設定ラフ。セクシーなヌード設定も存在。こちらに三条、貝澤、そして演じる高木渉らによって生命が吹き込まれる……！

三条陸



さんじょう・りく：大分県出身。明治大学卒業後、雑誌の編集者・記者として活動。'86年、OVA『装鬼兵MDガイスト』で脚本家デビュー。その後、『週刊少年ジャンプ』（集英社）誌上『DRAGON QUEST-ダイの大冒険-』（'84年）の原作を手掛け、以後暫くは漫画原作者として活躍。'05年、『ガイキング LEGEND OF DAIKU-MARYU』で脚本家としての活動も本格的に再開。最新作は『仮面ライダーW』、『デジモンクロスウォーズ』（'10年～）など。瑳川竜名義の作品もある。

●鬼太郎が想う妖怪たち

――ゲストも含めて、高山さんご自身がお気に入りの妖怪は？

高山　基本、出て来る妖怪はみんな仲間だと思っているので、気に入っているものをピックアップするのは難しいんです。それより正直、人間が怖かった（苦笑）。妖怪の立場で臨んでいるので、「自分たちの利益のためになんでそんな勝手なことをするんだろう？」って。自然破壊にしても何にしても、「人間ってなんて恐ろしいんだろう」と思うことが多かったですね。妖怪は善いにつけ悪しきにつけ、みんな自分と同じサイドのものだという認識だったので、好き嫌いというカテゴリーにはちょっと当てはまらないんです。だから、妖怪が沢山出て来る話というのはすごく安心できるんですけど、舞台が都会だったり、人間が沢山出て来るお話だとなんだか落ち着かない感じでしたね。

貝澤　すっかり鬼太郎に成り切っていたんですね（笑）。

――高山さん的に、人間サイドの重い話として憶えている回はありますか？

高山　やっぱり「ゆうれい電車あの世行き」（第9話／脚本：長谷川圭一／演出：角胴博之／作画監督：薮本陽輔／美術：白井走）。「人間に痛い目を見せてやろう」という、あの話はちょっと衝撃だったんです。でも、それぐらいやらないと分からないのかな？って思った部分もありました。それから、やっぱり自然破壊をする人間たちの話。泥田坊（声：大場真人）の話（第70話「退治不可能!?泥田坊」脚本：成田良美／演出：角胴博之／作画監督：出口としお／美術：清水哲弘）や赤舌（声：飯塚昭三）の話（第82話「命カラカラ！赤舌温泉」脚本：成田良美／演出：土田豊／作画監督：小泉昇／美術：宮前光春）の話。あと、水虎の話（第1話「妖怪の棲む街」脚本：長谷川圭一／演出：貝澤幸男／作画監督：信実節子／美術：吉田智子）も同じ感じかな。祠を壊したり…なんて「ほんのイタズラが、実は大変な罪なんだ」という話がたくさんありましたね。そういう話が子供たちの心に響いてくれたら…と思っていました。もちろん大人にも（笑）。余談ですが、私の友人は、子供が水を出しっぱなしにすると『赤舌』が来るよ！」と言うそうです。子供は素直に「赤舌さん、ごめんなさい」って。とっても嬉しい話でした。

●妖怪横丁から妖怪四十七士へ

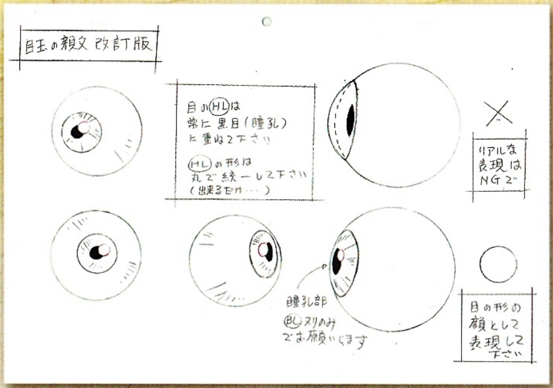
――妖怪横丁誕生の経緯をお聞かせください。

三条　貝澤さんのイラストラフを拝見したら、最初から地図になっていて「なるほど」と思いました。どんな妖怪が住んでいるかというのが最初から決まっていたわけではなんですけど。はじっこにゲゲゲの森があり、森以外に妖怪たちの世界があって。そこに住んでる変なやつらがいろんな生活をしている、というアイデアがあったんですね。

貝澤　「今回、この妖怪は何屋をやっていることにしよう」と。アニメでは最初に大体の設定を作らないといけないので、「ここに風呂屋があって」といったことを作って。ある程度、「何屋をやっているのは妖怪の何々」ということを決めていき、あとはシナリオで追加していったり。タウンマップは最初の1クールぐらいは、練りながら作っていった具合でしたね。

――どの段階で妖怪四十七士の構想というのは生まれたのでしょうか？

櫻田　あれは劇場版（『ゲゲゲの鬼太郎 日本爆裂!!』［'08年］脚本：三条陸／監督：古賀豪／総作画監督：浅沼昭弘／美術監督：本間禎章）があってのことですね。劇場版の『鬼太郎』が決まって、フジテレビさんから「やはりTVとの連動なくしてやっても意味がないし、TVを盛り上げることも映画の役割のひとつだから、TVと



『鬼太郎』最大の萌えキャラ」と称された目玉おやじの、2年目にあたっての改訂指示設定。より萌え度がアップした!?

貝澤幸男



かいざわ・ゆきお：長野県出身。現在、『マリー&ガリーver.2.0』、『デジモンクロスウォーズ』（10年〜）を演出中。

※詳細なプロフィールはP.7をご覧ください。

連動させましょう」と言われて。あとは第3、第4シリーズを担当されていたフジテレビの清水賢治プロデューサーが、映画をやるにあたって『鬼太郎』映画の新しい魅力を発明せよ」と（笑）。僕と三条さんにそう言われてね。それで「なんかしなきゃなぁ……」ということでしたね。

三条　それで貝澤さんが以前から言われていた地方色とか、素朴さとかを出していこうと。たまに鬼太郎が田舎に行くような話もやったんですけど、そういうのも味があって良いし。日本は何割かが山だから、日本でTV放送している以上、大体の人が家の周りにこの風景（『鬼太郎』的な日本の田舎の原風景）を見ていることになると思ったんです。

櫻田　本当は最初にTVシリーズで四十七士が全員揃うはずだったんです。でも、その前に色々出さないといけなくなって。「鬼太郎パン」とか（笑）。

——パンといえば、第40話「大フィーバー！鬼太郎グッズ」（脚本：吉田玲子／演出：貝澤幸男／作画監督：大谷房代／美術：白井走）がありますが、あれは本当にタイアップ商品を出すこと前提で考えられたのでしょうか？

貝澤　そうです。「鬼太郎パン」とか「鬼太郎スナック（ゲゲゲスナック）」をタイアップで出そうということで。普通だったらちょっと出せば良いんでしょうけど、「本題にしちゃおうか」ということで（笑）。そういうのは割と三条さんが大好きみたいです（笑）。「やるんだったらとことんやっちゃおう」という（笑）。

高山　あれはアマビエ（声：池澤春菜）がメロン（味）だったっけ？ どう見ても中にアマエビが入ってそうな感じだよね（笑）。

貝澤　鬼太郎パンのちゃんちゃんこサンドが結構物議を醸しましたよね？（笑）あの模様が。「普通は白黒っていう風になるのにこれは黒白ってなったから、これは違うんじゃないか？」って（笑）。あと、外見だけじゃなくて中身のあんこもね。実はあんこじゃないっていう（笑）。最初は小豆という話だったんですけど、チョコレートクリームになったんですね。「小豆は子供の好き嫌いが多いから、あんまり売れないんですよ」という話になって。小豆洗い（声：小西克幸）に聞かせられないな、という（笑）。あの小豆洗いだと何するか分からないですよね？（笑）

高山　ちょっと危ないですからね、小豆洗いは（笑）。あの過激さも第5シリーズならでは…でしょうね。

——ひとまず第5シリーズの『鬼太郎』にはピリオドが打たれたわけですが、感慨と言いますか…。

高山　早く再開、というか続けたいですね。できる限り永〜く。なんたって、妖怪は不死身ですから（笑）。

一同　（拍手）。

（2009年12月某日 早稲田・喫茶ぷらんたん）



2008 TVシリーズ 各話紹介

第52話「恐怖！ 夜道怪」
脚本：三条陸　演出：貝澤幸男　作画監督：藪本陽輔　美術監督：白井走／高木佑梨

不気味な僧に自宅の軒先を貸した光一。恩返しを申し出られた彼は、僧にあることを依頼するが…。

第53話「白山坊 ビバ！ お化け屋敷」
脚本：吉田玲子　演出：深澤敏則　作画監督：仲條久美　美術監督：清水まこと

白山坊とねずみ男主催の「お化け大劇場」が大当たり。人間に怨みを持つ化け草履はそれが気に入らず…!?

第54話「吸血鬼エリート」
脚本：成田良美　演出：角銅博之　作画監督：伊藤智子　美術監督：清水哲弘

エリートばかりを狙う吸血鬼・ジョニー。国務大臣を助けた鬼太郎は彼に狙われてしまい…!?

第55話「百目の呪い」
脚本：三条陸　絵コンテ：八島善孝　演出：立仙裕俊　作画監督：信実節子　美術監督：西山正矩

隆は携帯電話から聞こえた声に助けられ、九死に一生を得る。だが、彼を狙う魔の手は再び迫っていた…！

第56話「禁じられた岬！ 磯女」
脚本：吉村元希　演出：勝間田具治　作画監督：出口としお　美術監督：高木佑梨

魚釣りをするため、立ち入り禁止の場所へ侵入した子供たち。だが、そこは磯女のテリトリーで…!?

第57話「伝説の大妖怪 鵺!!」
脚本：成田良美　演出：角銅博之　作画監督：小泉昇　美術監督：安積裕子

鵺寺で黒雲に包まれた鬼太郎は、平安時代へとタイムトリップ。それはどうやら鵺の仕業らしく…!?

第58話「ペット妖怪！ 白うねり」
脚本：木原大輔　演出：西沢信孝　作画監督：八島善孝　美術監督：清水哲弘

旧校舎で雑巾みたいな妖怪と出会う子供たち。彼らはその妖怪をギュギュと名付けて可愛がるが…!?

第59話「グレムリン東京上陸!!」
脚本：三条陸　絵コンテ：入好さとる　演出：門田英彦　作画監督：浅沼昭弘　美術監督：西山正矩

ねずみ男がコメンテーターとして出演した番組に大量のグレムリンが乱入。テレビ局は大騒ぎに！

第60話「働け!! 妖怪バリバリ」
脚本：吉田玲子　演出：土田豊　作画監督：藪本陽輔　美術監督：高木佑梨

後継ぎ息子にやる気を出して欲しいと願う高木は、ねずみ男から手に入れた妖怪の卵を息子に飲ませる。

第61話「妖怪城のたんたん坊」
脚本：成田良美　演出：勝間田具治　作画監督：大谷房代　美術監督：清水まこと

生贄として村の子供たちをさらっていく妖怪城。鬼太郎は城主を突き止めるため、妖怪城に乗り込むが…!?

第62話「くびれ鬼が死をまねく」
脚本：三条陸　演出：畑野森生　作画監督：仲條久美　美術監督：清水哲弘

アマビエの占い館にトップアイドルのＡＹＡが来訪。疲れを見せる彼女はくびれ鬼に狙われていて…!?

第63話「日本妖怪全滅!? 妖怪反物!!」
脚本：吉村元希　演出：深澤敏則　作画監督：出口としお　美術監督：西山正矩

ふたりの虎男を使って日本妖怪を反物へ変えていく中国妖怪・チー。その魔の手が妖怪横丁にまで伸びる！

第64話「もうりょうの夜」
脚本：三条陸　演出：角銅博之　作画監督：信実節子　美術監督：高木佑梨

鹿羽村で50年ぶりに死人つきが出た。だが、泰造は迷信だと決めつけ鬼太郎の言うことを聞かず…!?

第65話「呪いの鳥！ うぶめが舞う」
脚本：三条陸　絵コンテ：八島善孝　演出：門田英彦　作画監督：八島善孝　美術監督：清水まこと

ねずみ男によって復活した姑獲鳥は街へと飛び去る。一方、ネコ娘は家庭教師のバイトでとある少年と出会う。

第66話「さら小僧！ 妖怪ヒットチャート」
脚本：吉田玲子　演出：西沢信孝　作画監督：小泉昇　美術監督：清水哲弘

さら小僧の歌を自作と偽り発表したザ50回転ズ。曲はヒットするが、盗作がさら小僧にばれてしまい…!?

第67話「歩く吸血樹！ 樹木子」
脚本：三条陸　演出：勝間田具治　作画監督：伊藤智子　美術監督：西山正矩

樹木子を封印するため、蒼坊主は鬼太郎とネコ娘の案内で、以前山の中で助けた少女の元を訪れる。

第68話「地獄超決戦！ 西洋妖怪総登場！」
脚本：三条陸　絵コンテ：入好さとる　演出：門田英彦　作画監督：藪本陽輔　美術監督：北村芳子

死者の魂が蘇り、人間界は大混乱。ネコ娘は閻魔大王から五官王が裏切ったせいだと聞かされるが…。

第69話「鬼太郎大異変！ 穴ぐら入道」
脚本：吉村元希　演出：貝澤幸男　作画監督：仲條久美　美術監督：高木佑梨

やる気を吸い取るいやけ虫に寄生されてしまった鬼太郎は、虫に詳しい穴ぐら入道の所へ相談に行く。

第70話「退治不可能!? 泥田坊」
脚本：成田良美　演出：角銅博之　作画監督：出口としお　美術監督：清水哲弘

ニュータウンへと引っ越してきたみのり。だが、地元の老人からここに住んではいけないと言われ…!?

第71話「南方妖怪 日本上陸!!」
脚本：吉田玲子　演出：深澤敏則　作画監督：大谷房代　美術監督：西山正矩

南方妖怪５人衆は世界征服の野望を果たすため、鬼太郎を倒して東京を南国にしようと計画していた！

第72話「妖怪城始動!! 朱の盤奮戦記」
脚本：成田良美　演出：土田豊　作画監督：信実節子　美術監督：清水まこと

妖怪城を目覚めさせるため、家鳴りを捕獲していくぬらりひょん一味。だが、朱の盤はドジばかりで…!?

第73話「妖怪四十七士の謎」
脚本：三条陸　絵コンテ：八島善孝　演出：門田英彦　作画監督：八島善孝　美術監督：高木佑梨

飛騨山中で黒鴉から天狗武術を習うネコ娘。一方、ねずみ男はひでり神を利用した罪で投獄されてしまい…!?

第74話「一反もめん！ 鹿児島決戦!!」
脚本：三条陸　演出：角銅博之　作画監督：小泉昇　美術監督：清水哲弘

横丁の帰省ブームを受けて鹿児島へ戻った一反もめんは、なぜか天狗ポリスに逮捕されてしまい…!?

第75話「見上げ入道の妖怪学校」
脚本：成田良美　演出：勝間田具治　作画監督：藪本陽輔　美術監督：西山正矩

見上げ入道はねずみ男を使って簡単なテストを配り、人間の子供たちを自分の妖怪学校へと入学させるが…!?

第76話「最強タッグ!! 南方&中国妖怪!!」
脚本：吉田玲子　演出：畑野森生　作画監督：伊藤智子　美術監督：清水まこと

中国妖怪のミンメイから鬼太郎を倒せる妖怪捜索を依頼されたねずみ男は、南方妖怪を紹介して…!?

第77話「雪女！ 美しき復讐鬼」
脚本：三条陸　演出：西沢信孝　作画監督：市川慶一　美術監督：高木佑梨

四十七士探しで出羽三山を訪れたネコ娘たちは、吹雪に遭ったところを葵という雪女に助けられるが…。

第78話「怒れる亡者たち！ ヒダル神」
脚本：吉田玲子　演出：角銅博之　作画監督：仲條久美　美術監督：德重賢

山で食べ残しのお弁当を捨てたカップルがヒダル神に襲われた。ヒダル神は勢力を拡大して街を襲い…!?

第79話「執念の妖蛇！ 槌の子!!」
脚本：三条陸　絵コンテ：入好さとる　演出：門田英彦　作画監督：八島善孝　美術監督：清水哲弘

ツチノコブームを受けて、言いつけを破って友人とツチノコ探しに出る剛。しかしそこに現れたのは…。

第80話「美女と寝太り！ 連続妖怪事件」
脚本：吉村元希　演出：深澤敏則　作画監督：出口としお　美術監督：高橋英次

謎の爆発事件で恋人が失踪してしまった遥。ねずみ男は悲しみにくれる彼女の力になろうとするが…!?

第81話「決闘！ 妖怪ハンター 対 針女」
脚本：木原大輔　演出：貝澤幸男　作画監督：信実節子　美術監督：清水まこと

影を巡って戦い続ける針女と猟師・源五郎。鬼太郎は村長から源五郎の手助けを依頼されるのだが…？

第82話「命カラカラ！ 赤舌温泉」
脚本：成田良美　演出：土田豊　作画監督：小泉昇　美術監督：宮前光春

温泉地で、乱開発を行っていた作業員が石にされてしまった。そのうえどんどん温泉や川の水が枯れていき…!?

第83話「燃えろ！ 小豆連合」
脚本：吉田玲子　演出：小牧文　作画監督：藪本陽輔　美術監督：清水哲弘

不作で小豆が取れないため、小豆ばばあと小豆はかりは悪玉小豆を使って人間たちから小豆を取り始めて…!?

第84話「野寺坊！ 夜の闇に響く鐘」
脚本：三条陸　演出：勝間田具治　作画監督：伊藤智子　美術監督：高橋英次

鬼太郎は幻の妖怪昆虫を採集しに、とある森を訪れる。だがその森は開発のため伐採が進んでいた…。

第85話「鬼太郎絶叫！ 妖怪城の切り札!!」
脚本：三条陸　絵コンテ：八島善孝　演出：門田英彦　作画監督：八島善孝　美術監督：清水まこと

妖力が強い妖怪が次々と行方不明に。それは、妖怪城を復活させせんとするぬらりひょんの仕業だった！

第86話「背後に迫る恐怖！ 後神」
脚本：成田良美　演出：深澤敏則　作画監督：市川慶一　美術監督：宮前光春

自分だけのおしゃれな家が欲しくなってしまった後神。彼女は住人を妖怪サボテンに食べさせていき…!?

第87話「巨人！ ゴーレムの涙」
脚本：三条陸　演出：角銅博之　作画監督：出口としお　美術監督：清水哲弘

子ぬりかべと子ゴーレムを通じて接触する、ぬりかべとゴーレム。敵対する立場のふたりだったが…。

第88話「妖怪決死!! 地獄横断クイズ!!」
脚本：吉田玲子　絵コンテ：入好さとる　演出：門田英彦　作画監督：仲條久美　美術監督：高橋英次

妖怪たちにもっと地獄を理解してもらうため、閻魔大王は「地獄一クイズ大会」を催すが、その内容は…!?

第89話「師走の奇跡！ 鬼太郎大いそがし!!」
脚本：成田良美　演出：畑野森生　作画監督：小泉昇　美術監督：清水まこと

人間が忙しいと元気が出てくるいそがし。彼はとある運送会社に目をつけ、もっと忙しくさせるが…!?

第90話「新年大暴走！ 鬼太郎火車!!」
脚本：三条陸　演出：西沢信孝　作画監督：信実節子　美術監督：宮前光春

初詣で賑わう参道で、出店の餅が地面に吸い込まれる事件が発生。横丁一の餅好き・火車が疑われるが…!?

第91話「妖怪筆師！ 一つ目小僧」
脚本：三条陸　絵コンテ：石黒育　演出：秦義人　作画監督：古沢英明　美術監督：清水哲弘

先輩の会社を訪れた鷲尾は、そこで会社に通いながら人間たちと共存している一つ目小僧と出会う。

第92話「猛烈！ 妖怪水車!! がんばれ浪小僧」
脚本：吉田玲子　演出：角銅博之　作画監督：大河内忍　美術監督：高橋英次

浪小僧は家族の仇をとるため、打倒・猛霊八惨を誓う。そこで岩魚坊主へ弟子入りを志願するが…!?

第93話「おばけビルの妖怪紳士！」
脚本：三条陸　演出：土田豊　作画監督：浅沼昭弘　美術監督：清水まこと

建て替えを予定している古いビルのオーナーの元へ、あるはずのない4階の住人を名乗る男が現れ…!?

第94話「沖縄の守り神 シーサーの正体！」
脚本：成田良美　演出：深澤敏則　作画監督：八島善孝　美術監督：宮前光春

故郷の沖縄で嫌われ者だったアカマタはシーサーと再会。だが、ただひとり優しかったはずの彼は冷たくて…!?

第95話「妖怪スイーツ！ バレンタイン作戦」
脚本：三条陸　演出：小牧文　作画監督：出口としお　美術監督：清水哲弘

鬼太郎に手作りチョコを渡すため、ネコ娘は大はりきり。だが、乙女の恋心を狙った西洋妖怪が現れ…!?

第96話「怪奇ロマン！ 妖花の誘い」
脚本：吉村元希　演出：貝澤幸男　作画監督：市川慶一　美術監督：高橋英次

父親が航海に行ったまま帰らないまゆみ。偶然手に入れた種を育てる彼女を、妖花の怪異が襲う…！

第97話「衝撃!! 鬼太郎猫になる！」
脚本：成田良美　演出：角銅博之　作画監督：小泉昇　美術監督：清水まこと

猫が人間を襲う事件を解決するため、鬼太郎たちは猫又のノラと共に、猫になって「猫街」へと向かう。

第98話「おやじ大充血！ 勇者鬼太郎!!」
脚本：吉田玲子　演出：畑野森生　作画監督：仲條久美　美術監督：宮前光春

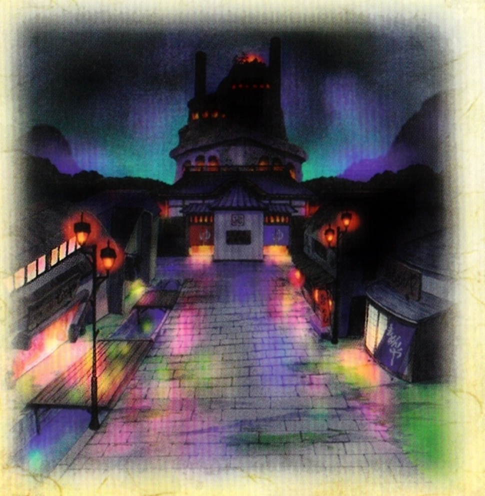
ゲームの世界へ引きずり込まれた鬼太郎たちを救うため、目玉おやじはプレイヤーを買って出るが…!?

第99話「都会の天守閣！ 妖怪亀姫」
脚本：吉村元希　演出：深澤敏則　作画監督：大谷房代　美術監督：清水哲弘

和服の女性による連れ去り事件が発生。それは、亀姫と長壁姫の雅比べという遊興のためだった！

第100話「さらば父よ！ 脅威の天狗王」
脚本：三条陸　絵コンテ：西沢信孝　演出：小牧文　作画監督：藪本陽輔　美術監督：高橋英次

かつて大天狗と戦い、岩に封印された黒雲坊。彼は黒鴉の体を乗っ取り、大天狗への復讐を企てる！



スタッフ

プロデューサー：
高瀬敦也（フジテレビ）、
情野誠人（フジテレビ）、
木村京太郎（読売広告社）、
池田慎一（読売広告社）、
櫻田博之（東映アニメーション）、
原作：水木しげる
連載：「おともだち」、
「たのしい幼稚園」、
「テレビマガジン」（講談社）
シリーズ構成：三条陸
音楽：堀井勝美、横山菁児
OP主題歌「ゲゲゲの鬼太郎」
作詞：水木しげる　作曲：いずみたく
編曲：ザ50回転ズ　歌：ザ50回転ズ
（ワーナーミュージック・ジャパン）
ED主題歌「カクメイノウタ～Diggi-n'～」
作詞・作曲：山本大輔
編曲：ロッカトレンチ　歌：ロッカトレンチ
（ワーナーミュージック・ジャパン）
「夏の魔物」
作詞・作曲：秋野温
編曲：鶴、スパム春日井　歌：鶴
（ワーナーミュージック・ジャパン）
「スターフルーツ」
作詞・作曲：クボケンジ
編曲：上田健司、クボケンジ　歌：メレンゲ
（ワーナーミュージック・ジャパン）
「三日月と北風」
作詞：浅田信一　作曲・編曲：本間昭光
歌：HI LOCKATION MARKETS
（ワーナーミュージック・ジャパン）
挿入歌「Sweet Magic ver.AYA」
歌：AYA＊アマビエ
制作担当：岡田将介
キャラクターデザイン・総作画監督：上野ケン
美術デザイン：吉田智子
色彩設計：板坂泰江
シリーズディレクター：貝澤幸男
制作協力：東映
制作：フジテレビ、読売広告社、
東映アニメーション
脚本：三条陸、吉田玲子、成田良美、
吉村元希、木原大輔

原画：福原恵次、上田明美、鈴木太貢朗、
兼高里圭、松本昌子、青木里枝、
石上ひろ美、田中志穂、市川雅也、
藪本陽輔、太田優喜、戸井田宙、
羽坂英則、荒川絵里花、浦和文子、
増田清美、原田節子、内山正幸、
深本泰永、仲條久美、小林慶輝、
伊藤智子、大谷房代、大河内忍、
下村こず恵、岡田誠司、野津美智子、
西田浩二、池田志乃、西川由希子、
山口泰弘、永木龍博、長崎重信、
信実節子、高橋のぞみ、原田竜作、
出口としお、小泉昇、大山康彦、服部一郎、
小池裕樹、泉恭子、芹田明雄、村俊太郎、
井上なつき、金丸綾子、八島善孝、
浅沼昭弘、市川吉幸、野田春彦、箕輪悟、
阿尻隆司、小市由佳、山口杏奈、
古和田真弓、莉来楠、市川慶一、
木下ゆうき、岩下佑也、山後葵、杉浦涼子、
平松岳史、小野慎哉、立口徳孝、海老沢幸男、
岡穆次、林原麻紀、上野ケン、佐藤元、
松尾亜希子、清山滋崇、春山和則
動画検査：松本恵
動画：TAP、かぐら、
M・S・J・武蔵野制作所、
西野洋子、大森唯、馬渡久史、石井邦俊、
金後映、町田佳代、じんぶん、白井奈緒子
背景：KLAS、佐々木友子、今村立夫、
鈴木慶太、吉崎優、平良亜梨沙、
マジックハウス、常盤庄司、安積裕子、
北村芳子、立花コウキ、スタジオロフト、
井上澈雄、劉基連、Seoulロフト、
獏プロダクション、西山正矩、矢島伊都子、
市谷正夫、清水まこと、中林由貴、
伊藤雅人、椿浩幸、川名俊英、徳重賢、
デザインオフィス・メカマン、大関桓雄、
大関雅美、小原志野、石原信明、
みきみちよ、本多敬、木谷咲子、
本多利恵、椛島靖代、森田麻水、宮前晋輔、
スタジオアクア、前美智子、土師勝弘、
菅野克也、矢島洋一、小谷隆之、鈴木祥太、
永井洋子、飯田和昭、吉田智子、
上原里香、木谷咲子、田中美紀
デジタル彩色：TAP、かぐら、
M・S・J・武蔵野制作所、
相原彩子、百目鬼成美、沼畑さやか

デジタル撮影：
三晃プロダクション、則友邦仁、
吉野和宏、峰岸智子、清水正道、
緒方美佐子、寺崎光喜、松平高吉、
石川晴彦、金子直広、福井道子、
岩本泰侑、佐伯英範、山口博睦、
花見早苗、福田有宏、夏原弘成、
白鳥友和、動画工房、上杉洋介、
桑野貴文、工藤康史、土屋久美子、
小林省太、大原弘史
編集：片瀬健太
録音：池上信照
編集助手：吉田公紀
録音助手：佐藤直哉、澤村裕樹
音響効果：今野康之
選曲：西川耕祐
記録：橋口舞子、樋口裕子
色指定：小日置知子
演出助手：小牧文、暮田公平、
まつもとただお、森一敏、高藤聡、
小山保徳、岩崎友和
制作進行：平井諭、田川文太郎、堀越圭文
仕上進行：北村聡、河本隆弘、村上昌裕、
金子翔、境野雄太
美術進行：ほんまおさむ、澤田真央起
制作協力：動画工房
広報：遠藤恵（フジテレビ）
録音スタジオ：タバック
オンライン編集：TOVIC
音楽協力：
インデックスミュージック、
フジパシフィック音楽出版、
東映アニメーション音楽出版
美術：白井走、高木佑梨、清水まこと、
清水哲弘、西山正矩、安積裕子、徳重賢、
高橋英次、宮前光春、北村芳子
作画監督：藪本陽輔、仲條久美、伊藤智子、
信実節子、出口としお、小泉昇、八島善孝、
浅沼昭弘、大谷房代、市川慶一、古沢英明、
大河内忍
絵コンテ：八島善孝、入好さとる、石黒育、
西沢信孝
演出：貝澤幸男、深澤敏則、角銅博之、
立仙裕俊、勝間田具治、西沢信孝、
門田英彦、土田豊、畑野森生、小牧文、
秦義人

キャスト

高山みなみ：鬼太郎
田の中勇：目玉おやじ
今野宏美：ネコ娘
高木渉：ねずみ男、シバテン
山本圭子：砂かけ婆
龍田直樹：子泣き爺、ぬりかべ
八奈見乗児：一反もめん
豊嶋真千子：クロ、ろくろ首、レポーター
中山さら：母、母親、雑巾妖怪、
アシスタントディレクター、シンジの母親、
マネージャー、呼子、看護師、始の母、
さら小僧④、久美の母、美女魔女軍団、
タイムキーパー、みのりの母、女性レポーター、
級友、先生、雪女、女の子、カタツムリ、
真奈美の母、子ゴーレム、セコ、まゆの母、
女子社員、金五郎の子供、子供、友人、腰元
日比愛子：少年、和也、男子生徒、級友、
木の葉ビミ、金太
高木礼子：光一
神田朱未：真紀、子供、美也子
中田譲治：夜道怪
丸山優子：かわうそ
池澤春菜：アマビエ、観光客
高戸靖広：傘化け、グレムリン、旧鼠、
ワイルド
田中真弓：ぬりかべ女房
大塚周夫：白山坊、黒雲坊
諏訪部順一：化けぞうり
小松里歌：女の子、司会者、野うさぎ、
工事業者
川名真知子：子供、少年
安西英美：子供
茶風林：ピー
川浪葉子：モンロー、吸血樹
鈴木清信：オソレ
石田太郎：吸血鬼エリート
田中亮一：大臣、院長、金五郎
森岳志：SP、魑魅魍魎、家鳴り、社員、
モンスター
平井啓二：キャスター、教師、村人、
羅城門の鬼、グレムリン、さら小僧①、
みのりの父、雪男、編集長、給仕、
なまはげ、白坊主、漁師、警備員
稲葉実：百目、はたおんりょう、グハ
田中秀幸：バケロー

置鮎龍太郎：隆
三宅健太：明、輪入道
田中大文：店員、助役、青年、魑魅魍魎、
康平の父親、男性レポーター、天狗、村人、
男性、工事夫、編集長、天狗ポリス
進藤尚美：翔、看護師
真山亜子：磯女
嶋方淳子：赤ん坊
高塚正也：村人、虎男、家鳴り、ヒダル神、
男性、蛇、工事業者
田中一成：村人、打田、虎男、編集、
味庭うる平、魔火
福原耕平：村人、さら小僧③、漁師、店員
島田敏：琵琶、チー、ヒダル神、ノラ
織田優成：陰陽師、カメラ、編集、
アナウンサー、司会者、男性、工事夫、
提灯小僧、ぬっぺほふ、工事業者
大友龍三郎：陰陽頭、化け灯籠、ゴーレム
野田圭一：鵺
中友子：お歯黒べったり、母親、康平の母親、
先代魔女、母、お黒、慈恩王、腰元
宇垣秀成：白うねり
広橋涼：大地、座敷童子
小林由美子：未来
鈴木真仁：駿、看護師、五郎、妖怪城、ハヤテ
青野武：ぬらりひょん
柴田秀勝：バックベアード
古川登志夫：蒼坊主
野中藍：ザンビア
郷里大輔：閻魔大王
竹本英史：宋帝王、土精、アササボンサン
広瀬正志：五官王
小松由佳：アシスタントディレクター
粕谷雄太：グレムリン、青年、さら小僧②
松尾翠：松尾翠
掛川裕彦：高木
岸尾だいすけ：シンジ、ポ、火車
増谷康紀：蹴原、剛の父
服巻浩司：実況アナ
大場真人：居酒屋おやじ、泥田坊
小西克幸：居酒屋の息子、朱の盤、川男、
小豆洗い、ドラキュラ3世、五道転輪王
菊池正美：かまいたち、ヒキガエル
チョー：たんたん坊
金月真美：二口女
大本眞基子：健太、康平

★再生上のご注意★

- ●DVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。DVDビデオ対応のプレーヤーで再生して下さい。
- ●作品を鑑賞する時は部屋を明るくし、画面から離れて見るようにして下さい。
- ●このディスクにはコピーガード信号が入っているため、コピーできません。プレーヤーからの映像出力をビデオデッキなどを経由して再生の場合、コピーガード信号の影響により映像が乱れる場合があります。DVDプレーヤーからの映像ケーブルは、直接モニターにつないで再生してください。
- ●片面2層ディスクでは、1層から2層に切り替わるポイントで一瞬映像が静止することがあります。これはDVDビデオの特性であり製品の不良ではありません。

取扱・保管上のご注意

- ●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。
- ●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布を軽く水で湿らせ、内周から外周に向かって放射状に軽く拭き取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。
- ●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。
- ●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修されたディスクは危険ですから絶対に使用しないで下さい。また、静電気防止剤やスプレー等の使用はひび割れの原因となることがあります。
- ●使用後は、必ずプレーヤーから取り出し、DVD専用のケースに納めて、直射日光の当たる所や高温、多湿の場所は避けて保管して下さい。
- ●ディスクケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがありますのでご注意ください。

メニュー画面について

- ●本編再生中にメニュー呼び出し操作をすると、メニュー画面を呼び出すことができます。
- ●チャプターやエピソードなどに映像が区切られている場合、メニュー画面から設定されている場面の呼び出しが可能です。
- ●複数の音声（または字幕）を収録している作品は、メニュー画面からの選択操作により、希望する音声（または字幕）での再生が可能です。

※一部のタイトルは再生中のチャプター操作、音声選択操作ができないものがあります。

画面サイズと音声について

- ● 16:9 LB と表記されているタイトルは、映像が左右に圧縮して記録（スクイーズ映像）されています。ワイドテレビ（16:9）でご覧いただく場合、テレビの操作（"フル"またはそれに準ずるモード）とプレーヤー操作によりワイドテレビに適切な画面でお楽しみいただけます。また通常のテレビ（4:3）をお持ちの場合でも、プレーヤーの操作により、レターボックス画面でお楽しみいただけます。詳しくはプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- ●音声がドルビーサラウンド、5.1chサラウンドなどで収録されている場合は、専用の音響システムを通じて再生すると、臨場感あふれるサウンドがお楽しみいただけます。
- ●DTS音声が収録されている場合、DTS音声の再生にはDTS対応のDVDプレーヤーとDTSデコーダーが必要です。

2 NTSC 日本国内向

●このディスクは、特定の地域についてのみ再生できるよう作成されています。従って販売対象として表示されている国や地域以外で使用することはできません。また販売については、表示されている国や地域を対象とし、国外へ輸出することは禁止されています。

(株)ハピネット　ピクチャーズユニット
カスタマー サポートセンター

弊社DVD商品の不具合等に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

フリーダイヤル 0120-128-990

お問い合わせ時間：平日（土、日、祝日を除く）
10:00～13:00、14:00～17:00

http://www.happinet-p.com

加藤英美里：幸子
佐藤正治：老人、妖怪経凜々
楠見尚己：村長、大天狗、所長、まゆみの父、夜行さん
ゆかな：AYA
岩田光央：くびれ鬼
前田愛：みどり
菅沼久義：青年
戸塚利絵：女の子、ザ50回転ズのファン
江川央生：つるべ落とし
私市淳：九州のカッパ
矢田耕司：井戸仙人
三浦祥朗：泰造
荒木香恵：娘
丸山詠二：住職
斉藤貴美子：看護師長、マダム、花魄、腰元
川津泰彦：魑魅魍魎、マイク、シェフ、オーナー
山崎和佳奈：うぶめ
浦和めぐみ：始
松野太紀：さら小僧
ダニー：ザ50回転ズ
ドリー：ザ50回転ズ
ボギー：ザ50回転ズ
藤堂真衣：50回転ズのファン
佐々木愛：50回転ズのファン
宝亀克寿：樹木子
斉藤千和：久美
木内レイコ：健司
津村まこと：夏樹
緑川光：黒鴉、黒雲坊黒鴉
井上倫宏：初代ドラキュラ
中博史：穴ぐら入道
塩屋浩三：プロデューサー、野寺坊
宮坂俊蔵：邪鬼、作業員、所員、店員、工事業者、モンスター
宮崎寛務：邪鬼、作業員、雪男、村人、猛霊八惨、警備員
生天目仁美：みのり
島香裕：多田
小林通孝：所長
立木文彦：アカマタ
千葉一伸：ランスブイル
麻生智久：老人、課長
小野坂昌也：ひでり神、雨降り小僧
岩崎ひろし：辻神
浜田賢二：ヒゴモ、田中先輩
平野正人：父、油すまし、天の邪鬼
大川透：見上げ入道
くまいもとこ：小林悟
伊藤かな恵：女の子、宿屋の子供、頼子、女性
松井菜桜子：ミンメイ、画皮、文車妖妃、フグル姫、マヨウ
山本圭子：やし落とし、シーサー
園崎未恵：葵
笠原留美：雪女郎
沼田佑介：ヒダル神、アブ、地蔵、子だるま
比嘉久美子：剛
佐藤聡美：少年、アナウンサー、少女、友人
広津佑希子：少年
釘宮理恵：遥
岡本寛志：一太郎
大塚明夫：源五郎
渡辺美佐：針女
塚田正昭：長老
斉藤佑圭：村人、客
飯塚昭三：赤舌
鈴木琢磨：川男
上村典子：小豆ばばあ、金太の母、腰元頭
小形満：小豆はかり
星野充昭：社長
高木早苗：社長の妻
笹本優子：順一
徳山靖彦：野ねずみ
浅野真澄：ミウ
鈴木れい子：蛇骨婆
土井美加：後神
福圓美里：真奈美
真殿光昭：祇園王
石塚運昇：手の目
山口勝平：いそがし
中井和哉：哲也
牧野由依：まゆ
稲田徹：橋本
佐藤朱：保育士
松原大典：所員、社員
阪口大助：豆腐小僧
草尾毅：鷲尾
三木眞一郎：一つ目小僧、一つ橋
金田朋子：浪小僧
辻親八：岩魚坊主
赤羽根健治：猛霊八惨、工事業者
妻人：だるま
達依久子：おばあ
子安武人：パンサー
島貫明仁：あきひと
末久愛夏：あいか
西村ちなみ：まゆみ
櫻井孝宏：猫ショウ
進藤尚美：ヒロト
井上喜久子：亀姫
勝生真沙子：長壁姫
鈴木賢：警備員
安田早希：小学生の子供



